京城日報

二十二日夕刊
(朝夕刊併せて八頁)

◎過激派稍讓歩形勢
ホ將軍壓迫其の効を奏せず

過激派のホルワフト長官壓迫も其効を奏せず同將軍の勢力を顛覆せしむ可くもあらざるより過激派は東清鐵道の政權は姑く此の儘と爲さんと稍讓歩の形勢を示し來れり(長春特電)

◎露艦隊管理移動

露國艦隊の管理は中央委員の手に渡し同時に提督を廢し現在の參謀部を廢して新たに選定せる職員を以て之に代らしむるの命令發布されたり尚中央委員は今後海軍の行動を指揮する部局の職員を任命す可しと(露都電報)

◎休戰條約交渉再開
露國委員休戰談判地に到著

十三日發獨逸公報によれば十二日露國委員プレストリトウスクに來著十三日より現在の戰鬪中止に代るべき休戰條約の交渉を再開せりと(倫敦電報)

◎芬蘭代表者出發

芬蘭代表者はプレストリトウスクの休戰條約談判地に向け出發せり(露都電報)

◎停戰命令不成立

陸榮廷氏等により自主獨立宣言取消の內意ありとの通告に依りて促進されたる停戰命令發布の議は高而謙氏先づ之を主張し馮總統贊意を表し二十日國務會議に上提したるが各總長は先づ戰備を整ふるに非ざれば其効無しとの意見にて遂に不成立に終りたり(北京特電)

◎譚浩明三廳設置

譚浩明氏は長沙に軍務、民政、財政の三廳を設置し之を統轄する旨布告せり(長沙特電)

◎葡國新政府承認

英佛伊白の四箇國は葡萄牙新政府を承認せり(巴黎電報)

◎大雪氷結輸送難

英軍司令部附路透通信員の所報に曰く『大雪氷結して輸送困難を極め大規模の作戰に出づる能はざるも敵は山間に活動し居り而して其戰線背面には既往の經驗に基き山間に赤十字旗を掲揚し監視を晦まし既に夥からず軍隊を移動したり』(倫敦電報)

◎下院各派交渉會

衆議院にては二十二日午前十時より各派交渉會を開會せり(東京特電)

◎中旬貿易入超

大藏省發表十二月中旬の對外貿易は六百四十五萬圓の輸入超過を示し我對外貿易は今春以來出超のみなりしに今回初めて入超を見たるが重なる原因は生絲輸出一千萬圓の減少を見たるが爲なり(東京特電)

◎朝鮮製鹽囑目

內地製鹽業は擴張の餘地無く寧ろ縮小を見つゝあり將來鹽の供給は植民地に俟つ可く殊に朝鮮製鹽は最も囑目されつゝあり(大阪特電)

◎和議と戰局

▲或は事實か 獨帝和議提唱說

獨帝はクリスマスの勅語に於て講和提議を爲す可しとのことなるも眞僞の程は保し難く或は斯かる報道を故らに喧傳して以て聯合國側の講和に對する意嚮を探らん獨逸一流の詭計なるも未だ知る可からず然れども獨軍は露軍の戰意滅却に由りて生じたる餘裕兵力を以て先づ能く伊太利ヴエネチア平原の大半を略定し得たるのみならず東部休戰に依りて生じたる餘裕兵力を以て今後更に伊太利若くは西部戰場に攻勢を取らんと欲しつゝあるが如く而も上記攻勢の準備成るを待ち若くは其の準備中に於て獨逸が何等かの形式を以て再び公然の講和提議を爲すに非ざるかとは識者專門家の間に夙に豫測せられたる所にして今回外電に依りて傳へられたる獨帝の講和提議說は一般に寧ろ有り得べきことゝなりて解せらる

▲提議の目的

獨帝にして若し斯かる講和の提議を爲すとするも之に對し聯合國側が一顧をだに與へざる可きは勿論にして獨帝も亦聯合國側が直に之に應ずるが如きことなきを知れるや必せり知りて尚ほ且つ之を爲さんとする所以のものは云ふまでもなく之に依りて聯合國殊に佛蘭西、伊太利等の和議論者に刺戟を與へ以て多少たりとも聯合國の結束を攪亂せんとするに在る可く聯合國の之を默殺して顧みざるに及び獨逸側は聲を大にして戰爭繼續の責任を聯合國側に嫁し外には中立諸國の同情を求め內には國民殊に社會黨等非戰論者を說伏するの具に供せんとするものなる可く其の眞意なく單に內外政略的の和議なる點に於ては彼の昨年末無制限潜水艇戰の宣言前に試みたる獨帝第一回の講和提議と全然同一轍なる可し(東京)

◎浦鹽近況
某歸客の談

浦鹽斯德の近狀に就き同地より入京者の談左の如し

▲市政中心動搖　浦鹽にては未だ過激派の勢力は猖獗ならず假へばハルビンのリウチンの如き頭目は之れを見ず然れども其の横行は懼る可きものあるに似たり、唯市政の實權は未だケレンスキー時代に定めし執行委員會にて之れを掌握し居れるが近來過激派より政權讓渡しに付强請あるため執行委員の諸氏は過激派と爭つてまで市政權を維持するの必要なしとし其の過激派讓渡の意見は漸次高まりつゝあり然れども勞働者の如き下層民を除き智識あり財產ある階級は過激派を喜び居らず

▲松田洋行露商　浦鹽市政の中心點が前述の如く動搖せんとしつゝあるため時局の前途を警戒せし浦鹽露國各銀行は一萬留以上の預金拂ひ出しを肯ぜざるために露國一流商店にして松田銀行部に當座取引を求め來る者少なからず松田銀行部は此際多くの預金を背負ひ込むも放資先き狹小なるため事實は目下の所有難迷惑の感あるべきも銀行部にては將來の關係を顧慮し及ぶ限り便利を圖りつゝあり

◎醫師試驗手續
試驗規則改正に伴ふ

大正七年五月一日より京城に於て朝鮮醫師試驗施行の旨告示せられたるが同試驗は從來基礎醫學より實地まで全部一時に受驗するを要せしが本年十月二十五日總督府令第八〇號(官報十月三十日)を以て試驗規則中一部改正せられ第一部基礎醫學第二部學說第三部實地の三部に區分し全部受驗すると一部受驗するとは受驗者の自由にして其の第一部又は第二部に合格したるときは各當部の合格證を授與せられ次期試驗より五回迄其の効力を保有することゝなりたるを以て內地に於ける醫術開業試驗と略ぼ同樣の取扱を受くる事となり受驗者に取りては多大の便益を與へられたるものと云ふべし尚今期の試驗を受けむとする者は明年四月十日迄に願書に履歴書、戶籍謄本、警察署長の身分證明書及び最近撮影の脫帽半身形寫眞を添付し全部の受驗者は十圓、二部(第一部と第二部又は第二部と第三部)を同時に受けむとするときは八圓、一部(各部中の一箇部)は六圓の收入印紙を貼付し警務部に提出すべしと因に同試驗規則其の他詳細は郡廳、警務總監部衞生課に問合すれば判明すべし

◎簡易農校改善

京畿道管內の簡易農業學校は從來普通學校職員之が教授を兼任し爲めに夜間教授なりしが夜間にては完全なる教授を施す能はざるを以て來春新學期より專任教師をして之を指導せしめ改善の實を擧ぐべしと

◎京畿酒造狀況

大正五年度京畿道管內朝鮮酒以外の醸造酒免許人員は五十八人にして此査定石數七千百九十五石稅金三萬五千九百七十七圓なりと

◎慶北の罐詰

釜山に本店を置き南鮮沿岸一帶に亘る各地に於て各種罐詰製造に從事せる淡盛商會は本年鰮の豐產を見越し慶北盈德郡烏保面萬浦洞にて罐詰製造を計畫し之に要する機具其他諸材料一式を帆船に積込み近く工場の完成するを俟ち大規模の作業に著手せんとする由なるが罐詰原料たる生鰮は同地附近漁業者と其の間に買入特約を爲したり(大邱)

◎大阪財界雜信

▲織物稍活況　各織物界は十月の大不振後稍回復に向ひ殊に他方面へ生絲紗四割の利益增加を初め米麥相場も皆奔騰し居る爲め案外に好況を呈し居るを綿絲低落の爲めに各織物相場も緩和せられし等により十一月中旬以後地方の需要增加し本月に入りて更に好況に向ひたれば十月停滯の在荷擲出せられ十一、二月の好況を以て十月の不振を補ふに足るべき豫想なるが大阪市內需要高は稍減少の傾きあり昨年來の不振期と略同一の結果を見るべしと

▲錫市況昂騰　紐育錫相場の昂騰を呈し來れるより內地相場も之れに連れ昨今一百五十五圓にて二十日前に比し十五圓方昂騰するに至りたるが當地に於ける在荷は甚だ僅少にして在荷內外に過ぎざれば隨つて偏强調持續すべく觀測し居れるもの多し而して香港錫は在荷皆無なりと

▲生石灰は暴騰　生石灰は一般化學工業の勃興するに至りたるより著しく時局の反撥を受けて該方面に於ける需要の旺盛と運賃並に工賃高と相俟ちて去る九月一日より十一月一日に掛けて三割方の價格を引上ぐるに至りたるが十二月一日より更に二割方の引上を決行し昨今現物市價は一貫目物十錢乃至十三錢摑み俵物四十錢乃至四十七八錢摑みを唱へ居れるが肥料方面に於ける需要頗る切迫の事とて自然先高を見越し賣惜み頗る强硬を呈し居れり

▲支那向綿絲　支那各市場は南北抗爭の爲め一時取引不可能となりたるが昨今は漸く落付き市場の氣配も鈍狀を脫せんとしつゝあるも南北衝突の方面は取引依然杜絕し各市場の滯貨頗る增加し是等の散出を見るに非ざれば容易に新規需要起らざる狀況にして特に本邦綿絲現場昂騰し支那相場と約十圓の値開きを生じ居る爲め益取引を妨ぐるを以て支那向き綿絲の狀況は不振を以て越年するの外なかるべしと(大阪支局)

◎閔長官訪府

閔李王職長官は二十三日午前八時四十分出發王世子殿下御任官祝賀に關する用務を以て東上に就き二十二日午前十時山縣政務總監を總督府に訪問し挨拶を爲したり

◎林公使通過期

北京駐劄日本公使林權助男は二十五日北京出發歸朝の事となりたるが二十七八日頃京城通過歸京す可しと

◎隈部少將來期

久しく東上中なりし關東都督府參謀長隈部少將は歸任の途二十一日朝南大門驛著列車にて入京の旨其筋に著電ありたり

◎鮮銀總裁歸京

滿洲線視察中なりし朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏は曾禰秘書役同伴二十二日午前木浦發午後九時南大門驛著列車にて歸京す

◎入見鐵道局長歸任

滿鐵及び支那各鐵道狀況視察の爲め出張中の總督府鐵道局長入見次郎氏は二十二日午後七時廿五分南大門著列車にて歸京すべし

◎趙子爵の病狀

子爵趙重應は宿痾再發し數日來病症面白からざる模樣にて主治醫の注意により靜養中なりと

◎市川參謀長催宴

駐劄軍參謀長市川堅太郎少將は來る二十六日午後六時淸華亭に於て發宴を開き京城記者團の主もなる者及び軍出入記者を招待す可し

◎東拓總裁社宅

永樂町東拓社宅は今回東拓本社東京移轉と共に總裁も東京常住となり不用となるに付中村精七郎氏の希望により同氏に賣却する事となりしが中村氏は該舍宅を京城滯在中の住宅とし其の正門の側に京城事務所を新營すべしと

◎圖書館へ寄贈　近日東京へ轉住する石塚東拓總裁は今回『近世都市論』外新舊書籍二百三十餘冊を京城圖書館に寄贈せりと

新らしき帝都の印象
山縣五十雄

無佛兒耽下。約一週間東京に滯在したる後生は京城へ歸るべく、身を急行列車に託して、東海道を西下しつゝあり。列車は今しも御殿場を過ぎて、富士の裾野を矢の如く走り、生は展望車の小卓に倚りて筆を執り居れるなり。いつ見るも富士の姿の秀麗なることよ。彼女は半ば雲を頂きて、鮮かに生の目に映わたり。雄偉と崇高とを實現して、我が愛國心を高潮せしむ。彼女は無言の大說教者なり。我國人の理想の標準なり。海外に在る我同胞は唯彼女に接する爲めのみにても一度は歸朝するの要ある也。

三年半ぶりに見たる東京は思ひし程には變り居らざれど、一般市民の生活が急速に西洋化否亞米利加化しつゝあるを認めずんばあらず。丸の內は今や純然たる米國風の市街にして、其處に往來する人々は顏こそ日本人なれ、其注意深げなる其油斷なきは、はた又其小賢しげなる都會の米人に異ならず殊に年若き會社員等の洋服の著こなし、身振り、口のきゝやう、米人そつくり其儘なり。思ふに其思想に於ても此等の若き人は甚大なる變化を受けつゝあらん。其他の一般市民にありても其衣食住と其思想とに於て速かに西洋化しつゝある事は、總ての方面に於て之を推測し得べし。三越白木屋等の百貨店やパアーが繁昌し、夕刊新聞が當市中の電車內に於て盛んに讀まれつゝあるが如きは東京市民の新生活の一面を語るものと見るべし。思ふに東京人を中心として我國民全體が近年格別に速に形而上形而下共に西洋化しつゝあるは何人も否む能はざる所、政治家も實業家も敎育家も宗教家も其他如何なる人も此大勢を逆行しては其志を遂げ、其事業を行ふ能はざるべし。時勢に順應して行動する人が常に優勝者の位置を占むるに至るのみ。我等は日本が顯著に世界的となれる今日、世界と共に移動進步せざるべからざるを感ずる際に切なるものあり。

以上頗る平凡なる感想なれど、生が三年半ぶりに見たる東京の印象に伴ふ所のもの、書外拜眉に讓る。(十二月十九日東海道列車內に於て)

人事消息

▲島田利吉氏(久原甲山鑛業所長) 二十二日朝元山へ
▲宮尾信次氏(鎭海要港部軍醫長) 二十一日午前釜山に上陸直に赴任す
▲龍岡一先氏(總督府醫院醫官) 二十一日夜內地へ
▲佐藤第一銀行京城支店長 二十一日內地へ
▲今村八十次氏(群山稅關支署長) 二十一日午後退京
▲牧山耕藏氏(代議士) 二十二日午前東上
▲指宿武吉氏(黃海道技師) 廿二日午前退京
▲小池元司氏(慶尚南道久原製錬所長) 同上

支那の詩畫史
(五) 今關天彭氏談

◎今一つの南唐は、六朝以來文學美術の本據たる江南に國を立てゝ居た、其の王たる李中主即ち李後主とて、これも風流を極め奢侈を極め又た妙畫の譽ある王の臣下に徐熙といふ畫の上手があつた。此の徐熙も後に太宗の畫院に居たのである。此の二黃と徐熙とが宋代繪畫の特色たる花竹禽魚を畫く先驅をなしたのである。

茲に些しく附加へるが、宋の一代を風靡した趣向は詩餘(塡詞)即ち唐詩、宋詞、元曲である。此の外古器物即ち商鼎彝或は法帖などを愛することが流行した之は皆南唐から來た思想である李後主は詩餘に於ける古今第一の人であつて、其臣下たる徐鉉等は、又た古器物、古法帖などの學に深かつたのである。歐陽永叔が集古錄を作つたのもこの人に關係があると思ふ。

○當時の詩界は、五代の極く弱い詩風の影響を受けて一般に調子がダレてゐたが、最も流行したのは前に話した、例の李義山の詩風である。此の詩風の流行は誠に夥だしいもので、義山の作つた字句を切り取つて、盛んに摸擬したものである。此の義山の、錦繡地に金覆輪をかけたやうな美しい詩風の流行する世の中に、二黃と徐熙との畫風が流行するのは至當な事だつた。

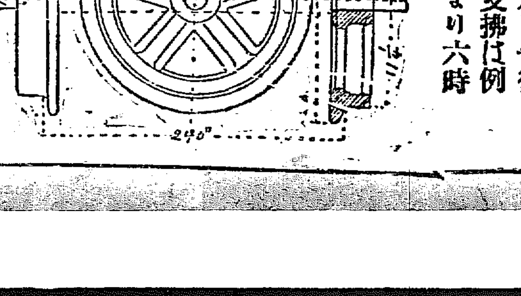
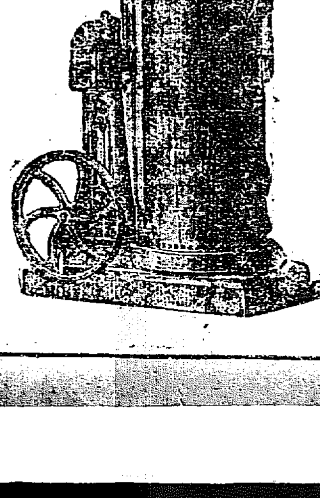
○だが二黃と徐熙との行き方は全く別であつて、二黃は富貴、徐熙は野逸と云ひて、一つは桃花鷺、鵲や孔雀や錦雞を描きて、其の色合、氣合はふつくりと、ゆたかなものを尊び、一つは汀に遊ぶ鳧雁や、野に生ひた竹、又は魚や折枝の花などを畫き其の色合、氣合は極く靜かな、その靜かな中に何とも云はれぬ氣品のあるものを尊びました。これを詩に比較すると、二黃は義山とツックリ合ふが徐熙は寧ろ晩唐の陸龜蒙や皮日休のやうな、靜かな趣味の中に高尚な氣品を有つてゐる詩風に似てゐるのである。斯んな有樣の中に歲月が經つて仁宗の頃になつて宋の詩界に於る第一番の蘇東坡が出ることになつた。こゝに至つて宋詩の特色が全く發揮されたのである。

本紙定價　一部金五錢　一ケ月金…
廣告料金　…
京城太平町通一丁目　發行所　京城日報社
電話　…
印刷人　小川三之助

謹告
弊社は多年滿洲並東清行貨物取扱の處今般朝鮮移出入貨物の取扱を開始致候間何卒續々御用命の程奉希上候
大阪市北區曾根崎新地三丁目
株式會社 日本運送 大阪支店

安心してお買求めの出來る
日ノ出向鳥印學生帽子

實質は價格に相當する優良品!!
全國均一販賣價段
A號 一圓五十錢
B號 一圓二十錢
C號 一圓
登錄商標 日ノ出向鳥印
(登錄商標に御注意)
全國到る處何れの店にてもお求めに少しもお手數が掛りません
東京本郷 吉安商店

年末支拂=廿六日限
年末支拂例年の通り廿六日午後四時より六時迄　普通支拂は例の通毎月十日午後五時より六時半迄
製在庫品目
汽罐
汽機
鐵管 八吋以下
土工用 車輪
鑛山用 押上ポンプ
八角鋼

在庫豐富

販賣部 京城南大門通五丁目 (電話一〇四番)
製作工場 岡崎町 (電二一六)
中根商會

風雲危ふし 最近の哈爾賓

◇露都過激本部の命令、果して兵力を◇
◆用ふべきか、哈市在留の日本人は何◆
◇うか、注目に値す可支那兵の大増遣◇

鮮銀司事 木原小平氏談

二十一日夜入京したる浦鹽松田銀行部長木原小平氏は最近約一箇月半哈爾賓鮮銀支店にありし人、哈爾賓の近狀につき語る

哈爾賓最近の形勢は過激派のためホルワット長官が捕はれたなど、新聞に傳へられる程險惡ではない、然し閣下の狀態より觀測すると、過激派リウチンの手兵と東清鐵道長官ホルワット將軍に隨いてゐる兵力が銃火を交へるかも知れず、又過激派と

▽最近大に增遣した支那兵との間に衝突を來すか分らない形勢にはある、然し私は色々の關係よりみて多分さうした流血の慘を見るやうな事態には立到らないであらうと思ふ、又哈市在住の日本人はそれらの爭亂のため生命財產を危くするやうな事はあるまいと信ずる、聞き摘んでお話しすると、既う新聞に傳はつたやうに哈爾賓の過激派の頭目リウチンはホ長官に向つて最初東清鐵道の經營權並に沿線行政權を犯さないと云ふ聲言をしたに拘はらず、後數日にして復た

▽露都過激派本部の命令なりとて鐵道經營權と沿線行政權の引渡しを求めた、然しホ長官は東清鐵道從業員同盟會にも圖つた結果同盟會員一致の後援あると並に東清本社からの命令なき限り、過激派に此權力を讓り渡す事は出來ないと云ふ回答をした、乃ちリウチンは過激派本部に向け上申し始末を止を得ずんば兵力を用ゐても之を奪取するかと云ふ問ひ合せ電報を發してゐるらしい、結局過激派本部から兵力を用ゐるも東清鐵道の

▽經營權並に沿線行政權を奪へと云ふ命令が來れば、そこに過激派に從屬せる兵力とホ長官の手兵とも云ふべき鐵道大隊の對峙を見る譯だ、過激派の兵力は、約二千と稱せられる、又ホ長官の軍隊は之れも同じく二千內外らしい、然しさう云つた所でいつホ長官の兵が過激派に臨するか過激派の兵がホ長官に降つて行くかは分らない、又過激派はいくらその勢ひが過激だと云つても、ハルピンが外國との關係に於て大變面倒な所と云ふ事は知つてゐるし、既に在留外人に對しては生命財產の安固の保證を聲言してゐる以上滅多な事は出來まいと思ふ、之私が時局の前途を樂觀する所以です偖て過激派對東清鐵道の關係は大略上述のやうだが、注目に値するのは支那兵の大增遣である。

▽恐らくハルピンの形勢が近來の如く險惡にならない間は

哈市に支那兵と云ふものは居なかつたであらう、駐つてゐても極めて少數であつたらう、然るに最近支那は五千名も增派して形勢の變に備へ、且つ過激派に相對して東清鐵道長官を助けやうと云ふ氣勢があるのは見逃し難い、露國の驅援によつてハルピンにだける勢力がいくらか凹んだ時、支那がグツと突き込んでゐた形である、謂ば露退支進の狀況である、支那兵は可なり前からハルピンの

▽商業中心地たる埠頭區並びに傅家甸の街路を隊伍を組んで示威的に廻つてゐました、時には大砲を曳いてゐた、所が十九日過激派對東清鐵道の形勢が一層險惡になると傅家甸街及び埠頭區の街路に一名宛武裝した支那兵を立たした、其の支那兵は銃丸を兩肩から澤山下げてゐていかにもスワと云へば打つと云つた風である、而して市中の練り廻りは相變らずやつてゐる、又電柱には漢文で東清鐵道の奪回露國勢力驅逐の必要と云つた風の文字を記したのを貼つてゐる、そこで之等の支那兵と

▽過激派の兵はどう云ふ行き掛りから銃口を向け合はぬものでもないと見れば見れぬ事もないのである、但し支那がこんなに威勢をよくしてゐるのは內治上の政策つまり國內の注意を外に向けやうと云ふ所から來てゐると說く人もあり、過激派對ホ長官の間に戰端でも開かれねば支那兵に銃火を切る覺悟はないのではあるまいか

▽邦人は雲行きが怪しいからと云つて引揚げるやうな者はないが、形勢如斯ため哈市の商業は近來殆んど閉止の狀況である、又市中露人の意向を探るに多く東清鐵道側に同情してゐるらしい、現に露亞銀行の如きハルピンの政權が過激派の手に移れば閉店すると云つてゐる、更に在哈萬一……或は十に一かも知れぬ……に對する自衞準備は怠つてゐない、序でに最近彼地の物價の騰は烈しいもので米一升が七留もし一寸料理屋に三四人で飲みに行くと三百留もせしめられ娼妓の相場を聞くと二十五留だそうだ、日貨に換算すると驚ろかなくてよいが、哈市では留をルーブルと云はず圓と云ふから耳喧へはバカに高くなる、それに此頃は追剝や小泥が多い、夜など歩くと早速外套などをとられたり、又どうかすると命も失くするから殆んど日暮れると出歩くものはない

李王世子殿下

廿四日には愈陸軍少尉御任官 來春一月中旬には來鮮せられん

李王世子殿下には去る明治四十一年一月故伊藤公の輔導の下に御東上以來十年有餘螢雪の功を積まれたる結果二十四日は愈々陸軍步兵少尉に御任官在らせられ且つ明春を以て御成年に達せられ萬事公の資格を持たせらるゝ事となりしが久々振りに來春一月中旬を以て御歸鮮に相成り李王、李太王兩殿下に御對顏の事に決定せり尙ほ梨本宮方子女王殿下との御成婚は來春四五月の好季節を以て芽出度御擧行の筈にて今回の御歸鮮は此準備に關する御打合もあるべしと拜聞す

金剛山の畫幅を御賞美

臨井江亭畫伯に御紋章入り銀盃を賜はる

臨井江亭畫伯が曩に昌德宮仁政殿東行閣に於て李王殿下の御召により金剛山萬物相の圖外八枚に揮毫をなしたる事は既記の如くなるが殿下には萬物相の圖を御嘆賞あり殊に金剛山の名は話にのみ聞かれ其の實景を見玉へるは此の畫幅を以て始めとなすより日夜御居間に掲げて御賞美あり時には金剛山に遊びたる事ある貴族等を召して冬の夜の徒れ〲に壽幅の說明を聞召さるゝ由右に就き殿下には特に御內帑を下だされ揮毫料の外に李花御紋章入三組の銀盃を二十一日儀式課事務官村胃彬氏を白木別邸內に寓居せる同畫伯の許へ遣はされ右の品々を贈られたり、こいよ尙ほ李王殿下の御前揮毫と云へる事は內地人としては臨井江亭氏を以て嚆矢とする由

李王殿下御賞美の江亭畫伯筆「金剛山」

全く危篤

青山博士

帝大醫學博士青山胤通男は二十二日午前五時全く危篤に陷れり(東京特電)

火藥爆發

內鮮人坑夫十名の大火傷

北海道登津郡所在大倉組秀鑛礦山にて本月十九日前後二回火藥爆發して十名の重輕傷者を出したる椿事あり同日午前九時頃第一坑內張所附近にて一名の朝鮮人坑夫が爆藥を裝塡する際雷管に導火線を箝めそれを爆藥に挿入せんとしたるも爆藥が氷結し居りし爲め強く押し込まんとしたる際俄然爆發して居合はせたる三名の鮮人坑夫は吹き飛ばされて大火傷を負ひたり次いで同日午後零時四分同坑內にて一名の坑夫が掘鑿したる穴に爆藥を裝塡せんとしたるに是又爆藥の結氷し居りしことて棍棒を以て穴に押し込みたるに突然爆發して七名の坑夫は大火傷を負ふに至れり內地人坑夫一名は輕傷にて應急手當を加へしが他の內地人坑夫は頗る重態なるも他は生命には別條なかるべしと

列車爆發犯

人は若い女

十月十八日九州線早岐驛發列車二等車中にて爆發椿事ありしが右犯人は佐世保市木場田町渡邉タケ(二十)の所爲なる事判明せりタケは海軍一等兵曹橋口淸と私通せるが淸は家督相續の出來ぬ身分にて養母が神戶鈴木商店名古屋支店員片山武(三十)を養子とせしより憤慨し爆發物の製作を情夫に托し武と養母挑江(五十)を殺害せんとしたるなりと(大阪特電)

一村全滅す

二十一日午後京都府船井郡世木村字日吉にて二十二戶燒失し一村全滅せり(京都特電)

贈答品は

優美なる漢陽高麗燒種々

大好評の明太魚カラスミ

五本入 金六拾五錢
七本入 金八拾一錢
十本入 金壹圓拾七錢

御贈答用 化粧箱入

京城本町二丁目 海市商會 電話一五〇番 一三五四番

自動車衝突

曹汝霖氏重傷

協約國賠償會議委員中國代表曹汝霖氏の乘れる自動車と中日實業會社副總裁李士偉氏の乘れる自動車とが二十日大總統府門前附近にて衝突し曹氏は硝子の破片の爲め頭部に重傷を負ひ佛國病院に入院せられしが李氏は無事なり(北京特電)

損害請求訴訟

平壤府府內町鍊鐵商久保願吉は昨年平安南道成川郡三德面に於て金鑛を發見し本年二月前に出願し鑛業權を獲得し爾來同鑛山の經營中成川郡鈴木某なる者は三德面の鑛區を藉口し三德面の鮮人十二名を語らひ共謀し三德鑛山の坑夫として使役より發見手數料として同鑛山價格の三分の一を受くる約束をなしありたりとて本年八月久保願吉を相手取り損害賠償金一萬三千圓の請求訴訟を爲したるが同事件は十九日平壤地方法院民事裁判に於て原告の申立を棄却すとの判決あり結局被告側の勝訴となれり(平壤)

酒類と葉卷

歲暮品賣出の青木堂

贈答品として如何なる物が適當であるか、此の問題は極めて容易なるべきや、渡決し兼ねる場合がある、先方の趣味嗜好の判明せぬ時などは殊更に惑するもので、朝鮮銀行前の青木堂に就て訊くと最も賣行きの好いのは矢張

▼籠入の洋酒 で取合せの組入りは、容の詰合せが自由で二圓のもの三圓のもの五圓のもの等があるが一般の家庭向としては赤白葡萄酒一本七十錢より七圓位迄、シャンパン一本一圓五十錢より七圓迄、ブランデー一本一圓以上十二圓位迄が

▼賣行き好く ウイスキーは七十錢まで、ベルモット一本一圓六十錢より一圓二十錢より五圓までであるが青木堂では一年中の御贔屓として十二月十日より末日まで歲暮付けクリスマス贈答用として前記輸入品の內六本、十二本毎に福引景品を撰擇し三本、好評を得てゐる、

▼卸値段以上 の割引を提供してゐるので非常な賣行を示してゐる、次は西洋菓子で今年は砂糖が大した騰貴を見ないので原料の總ての品が騰貴つてゐるが原料のキヤンデー、チヨコレートの外色々珍らしい物が最も好く賣れる

▼葉卷煙草 としてはマニラ產及びハバナ產の葉卷に埃及土耳其、英國の罐詰、紙卷煙草などが高價で先方に喜ばれてゐるが、罐詰類から肉類及び魚類の西洋食料品も見逃すべからざるものであらう又た

▼西洋食器具 は年を追うて流行し珈琲紅茶碗半打箱一個七十五錢より四圓位まで其他インキ壺、西洋皿、果物盛皿、菓子ホーク銀製ホーク、ナイフホーク等を進用として格好である殊に特筆すべきは同店發行の商品切手で贈答用として三越吳服店と共通し販賣品中何品でも引換の出來る重寶のものである

街の幕

本町通から

飛切の景氣 ◇盛んな贈答品の賣行き
長閑な子供 ◇暮らしい氣分も浮出た

二十一日の各官署の俸給日が過ぎると本町の景氣は一層引立つて來た、クリスマスの贈り物の裝飾と年末年始の贈り物とが各商店の窓を飾つてゐる、一昨年頃までは官吏は一切贈答品の交換をしてはならぬといふやうな

△お布令 があつたので一切歲末年首の贈答を控へる向きが多く、出入りの商人なども全くこれを見合せたので、贈答品を專門に商ふ店では影から打擊を蒙つたものだが、昨年あたりから一時程は喧ましくなくなつたのと世間一帶の景氣がよくなつたのとで商人はホク〱ものである

▼……だらうが內地へ贈物をする向きが非常に殖ゑたさう……それに今年は景氣がいゝせいである、これには朝鮮の特產物ともいふべき鳥類、高麗燒、人蔘などが最も多いといふことである、本町通りの一二丁目の繁榮を左右する程の勢力を持つてゐるのは何んといつても吳服商、洋物店である、試みに其二三の主人番頭に吳服物の賣行きを聽いて見ると、いづれも皆言ひ合したやうに『今年位景氣のいゝ年は二三年この方ありませんでした』と答へる、其の

△原因は 一時天井知らずの狂熱相場のために肝腎の仕度時を買ひ損ねたところへ今度は弱氣の影響を受けて十一月頃から弱氣の店も强氣の店も殆んど競爭的に値下を斷行した時も時、十二月に入つたので今まで買ひ控へてゐた向きがいづれ

▼……年末賞與金を見越して一時に財布の紐を緩め出したので、各吳服店共多少の危險を冒して仕入れた品物は、ドシ〱と捌けてゆく始末、物價騰貴の聲に脅かされた市中の氣は勞働者の勞銀增加やら勤め人の臨時手當支給、年末賞與などのために、いゝ方へいゝ方へと導かれたものであるらしいといふことである、この

△景氣の 本町通りに一層愉快な感じを起させる、正月餅の支度だの延壽屠蘇散など春めいた看板が見え出した、本屋の店には子供雜誌や婦人雜誌の新年號が、各々美しい體裁で春待ち顏の學生などを惹きつけてゐるのも春めいた一つの景趣ではないか、さては車馳り、馬走り、人急ぎ、さては人の心も走り勝なる匆忙さがあるかと見れば、その反面には亦斯うした長閑さもある、さてもさき〲なる暮の本町通りよ

商況

有價證券現物特電

公債直取引

東京期米特電

大阪株式時電

大阪三品特電

大阪期米特電

下關期米特電

雜報

絹糸布帛騰 當限三百八圓 先限三百十九圓

最近の新高値 現物

綿布・龍レ一十圓 三十五錢三銘十 圓六十錢と跳

內地製粉不況

米餅輸入絕望 神戶相場 七圓八十九錢

京城正米

南大門の廻穀

仁川正米

毛皮は軟安

見込 鮮內輸入絕對

落 十錢方低

米國筋一巡買

日下五十圓見當

糯は過剰乎

供給不足

春結局過剰

清酒は先

下關相場

釜山穀物

確實 迅速 (マ) 廣田商會

仁川期米

二十二日前場 (强硬)
兵庫二十二圓六十七錢 大阪 天候晴天
東京二
十錢 兵庫六十七
十錢 兵庫六十九

仲買店

田中金兵衛商店 仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町一丁目 電話長三〇八番

仁川取引所 二十二日の二月限

市場雜觀

贈答用品値段

▲小供帽子一箇 自金四十錢至金二圓五十錢
▲小供帽子一箇 至金七十錢至金三圓八十錢
▲皮手袋一組 金一圓五十錢至金四圓五十錢
▲メリヤス手袋一組 自金六十五錢至金二圓五十錢
▲婦人手袋一組 自金二十五錢至金一圓五十錢
▲シヤツメリヤス毛一組 自金二圓二十錢至金十二圓
▲婦人シヤツ一組 自金六十五錢至金二圓五十錢
▲小供メリヤス一組 自金三十錢至金三圓十錢
男子チヤ一組 自金一圓四十錢至金十圓
▲シガーケース一組 自金五圓至金三十圓
▲カフス釦一個 自金三十錢至金十圓
▲ハンカチーフ一打箱入 自金一圓至金六圓五十錢
絹ハンカチーフ一枚 自金四十錢至金六圓
▲ネクタイ一本 自金五十錢至金二圓五十錢
▲菊正宗四合瓶四打化粧箱入 金五圓五十錢
同二合瓶一打入 金二圓七十五錢
▲櫻正宗 同
▲金鵄四合瓶一打化粧箱入 金五圓六十錢
▲白鶴四合瓶一打 金一圓八九十錢
自金十圓至金十二圓

大阪 期米 二十二日後場 ○メソヂスト教會(旭町二丁目)二十三日 クリスマス祝會 三郵 二十一日午後十一時半入港 壹岐丸

仁川期米

△二十二日後場 大阪前止め高後寄安當限は中十九圓八十三錢より八錢先六十八錢より[illegible]節八十八錢[illegible]節四錢五錢四錢 △先限一節十九圓六十八錢九錢七十錢六十九錢七十錢一錢七十錢二

後場 東拓 高値 十九圓七十三錢 安値 十九圓六十二錢 出來高 [illegible]

貨幣交換と先物賣買

邦人の想像も及ばぬ支那錢の取引

金錢の賣買をすると云へば吾々日本人は異様に思ふに相違ないが貨幣の種類が種々雜多である上に各貨幣の間に少しの連絡もなく同種の貨幣であつても其れが時と處とに依つて相場を異にすると云ふ支那に在つては貨幣の賣買業者の現はれて來るのは蓋し當然の事である、例へば奉天の穀物商人が吉林に行つて大豆なり材木なりの買出をしやうとするには既に奉天で使用して居る小洋錢の資金を吉林で公通する官帖に交換して持つて行く必要がある又日本人の商店に就て日本

▲物貨の仕入 をしやうとするには今度は日本貨幣に換へて持つてゆかなければならぬ、又我々日本人が農家から大豆の買出をしやうとするには手に持つて居る日本貨幣を小洋錢に換へて持つて行かなければならない、其の上貨幣の相場は日々に變動して一定しないから之れが爲めに物品取引者は意外の利益を得る事もあるが又其代りに豫期に反して甚だしく利益を減殺せられ或る場合には買上の利益を貨幣相場の下落に由つて全く滅却されて思はぬ損失を招くやうな事は往々にある斯くの如き取引上の危險を防ぐ爲めに支那に於ては貨幣先物取引の發達を促して居る、貨幣の先物取引がどんな風にして貨幣

▲相場の變動 に由る取引上の危險を救濟するかと云ふに一例としてあぐれば今甲の商人が十月一日に十一月十五日限りの大豆一萬石を買ふたとし而して此の價格銀十萬圓とし十一月一日の銀相場は金一圓二十錢に付き銀一圓とすれば其の價格は金に換算すると正に十二萬圓となる此の十二萬圓は甲の商人が相當の利益を獲る値段であるに大豆受渡しの當日に成つて若し銀が金一圓に付一圓十錢の割合に騰つたとすれば甲の商人は大豆の代金支拂に銀十二萬圓を購入するが爲めに金十萬九千九十圓を要し初めの計算に對し九千九十圓の

▲差し違ひを 生じた事になる此の場合に若し甲の商人が大豆賣買の契約を爲すと同時に大連錢鈔取引信託會社に十一月十五日渡しの銀の先物十二萬圓を購入して置き大豆取引の當日に金十萬圓を支拂つて銀十二萬圓を受取り之を以て大豆の代金十二萬圓の支拂に充てる事が能きるから豫定通り金十萬圓を以て大豆一萬石の取引を終る事が能きて大豆取引

▲約定の日と 現物受取の日との間に於て銀相場の變動は此の取引の上に何等の影響を受けない事に成る要するに貨幣の賣買や貨幣相場の如き經濟的現象は幣制の完備して居る我國に於ては絶無の事であつて殆んど想像も及ばない處でないが滿洲の如き貨幣制度の紊亂せる地方に於ては日常の事件として取扱はれて居る(天涯)

◎支那と哈埠 保護

支那政府は去る日曜日臨時國務會議を召集討議の上其方針を左の如く決定したり

(一)一千九百九年の條約を履行し東清鐵道保護の義務を盡す事

(二)過激派を排斥して協商戰團加入の責任を果たす事

(三)支那の領土主權を維持する事

此の結果再び奉黑兩省より軍隊を增派し強硬態度を取る可き旨を該兩督軍及び孟[illegible]軍に電令したり

◎撫順炭の勁敵か

哈爾賓と西伯利亞炭

哈爾賓に於ける燃料は昨今騰貴して本年冬季市民の困難一方ならざるものあるより西伯利亞チエレンホーヴオ炭を安價に供給するの計畫ありといふ若し果して之が實行を見るに於ては撫順炭の競爭者として至大の關係あるべしチエレンホーヴオ炭は年額三千萬布度即ち我が約四十八萬四千噸の產出あり東清鐵道沿線に對し二百萬布度我が三十二萬三千噸の輸出許可あり十月末バイカル線より六千布度を東清鐵道マインホ驛に廻送し目下機關用として試驗中なれば今後供給の都合により續々到着の豫定なるが如し倘チエレンホーヴオ炭坑より六千露里の所に最近發見の炭坑あり是よりも哈爾賓に輸送せらるべしとの說あり哈爾賓商業會議所がチエレンホーヴオ炭の配給希望者の一箇月所要額を調查したる中重なるものは露國滿洲製粉會社三萬乃至四萬布度チユーリン商會一萬五千布度三チコーフ發電所二萬布度カサートキン製粉所一萬五千布度イルクーツク製粉會社一萬二千布度なり(一布度は我が四貫三百六十八匁餘)而して同炭の東輸出に對しては特定運賃の設定あり山元原價一布度二十五哥なるを以て哈爾賓着値段は一布度四十一哥二十五留五となるべしと云ふも果して本炭が哈市に於て勢を得る程有望なるや否やは頗る疑問に屬すべし

機械運轉査

◎晩達山セメント會社

百八十萬圓の資本を投じ工を急ぎつゝありし平安南道江東郡晩達面勝湖里なる小野田セメント會社工場は諸般の工事順調に進捗し既に去十八日より据付を終れる機器の運轉檢査を遞信局より技師山下金八郞氏平南警務部より高橋曹長大機關士等出張施行しつゝあるが[illegible]て布設中なりし輕便鐵道も枝林迄軌道敷設を終り目下架橋工事中なれば明春二月頃迄には工場迄の開通を見るに至るべし晩達山一帶悉くセメント原料たる石灰、粘土と云ふも過言ならず實に無盡藏の有樣なるに加へて附近なる明治鑛業會社の無煙炭鑛の明春を待つて着手さるゝあり其他水鉛鑛等注目に値するもの多きより早やくも內鮮人の蝟集するもの踵を接し人家軒を連ね一市街を形成するに至れりされば交通の利便と相俟つて形勝なる附近の眺望は遊覽客をも吸集する事となり益々繁盛を呈するに至るべし

◎四鄭鐵道

工事費二百萬圓不足

滿鐵本線四平街より東蒙古鄭家屯に至る四鄭鐵路借款は前年十二月十七日正金銀行にて引受け額面五百萬圓手取四百五十萬圓と定められしが開設後二百萬圓の不足を生じ復た正金より借入るゝ事となれり此借款の用途は未拂買收地代金漢冶萍公司の鐵砂買入金等に充當するべし猶四鄭全線中三江口は遼河の[illegible]に當り梨三縣の衝に當りて地勢最も重要なる上に該地は明年日本兵營設置件後日本軍隊今猶駐在せるの關係あるを以て玆に重要驛を設置し且つ開放市場と爲す由又八面城も亦地勢重要なるを以て近く之れを縣治と爲し鐵道開通と與に大に同地方の開發を圖る可しと

◎長春經濟便り

▲本年の奥地大豆出廻は初期以來甚だ好良にして三年越の出來榮ねなるが何分にも今秋よりの貨幣相場調が漸時步を進め底止する所を知らざる現狀より必然の結果として更に買氣付かず、三井物產の如きは東支南部支線の三大集產地に派せし出張員哈爾賓への引き上げを命じ居る程なれば他の大豆商人の一般趨勢は推して知るに難からず大連其他南滿諸地に於ける大商人よりの出張員の如きも等しく此の誤りわたる弱氣に抑へされて沈默し居れるが中には內々其の低下する度合に見當をつけ私かに一飛躍を試むる準備に餘念なき者もあるが如し

▲露貨が依然として七八百代を守りて動かざるを見て消息通の明言も案外あてにはならざるものなりと云ひ居る者あるも道は昨今南方よりの買ひ占め頻りにして長春現物市場に現はるゝ數の割少なく他には斯の特產物出廻期を控へたるが故にして此の狀を以て露の將來を多少とも樂觀するが如きは皮相にして危險なる事と云ふべし

▲驚目されたりし長春運輸會社は愈よ二十日より營業開始の運びとなり噂頻りなりし錢鈔會社も來る二十四日には創立總會を行ひ花々しく出陣すべし斯の如く景氣付きたる當地には又近々に於て五十萬圓の資本を以て製材會社創立の計畫あり

▲當地蜜柑の景況 初期より品不足の爲め相場は相當に値も下りて貿易き時機に入れるが何分にも當年の如く內地相場の張り居る年とて着荷依然として少く目下百個內外なりされど去る十七日壺南丸は大連に七千個を下せしとありて此れは當地開始まつて以來の大荷なれば或は近々に一車荷の來る運びにもなるべし要するに現在は荷不足なれど書入れ時なる支那正月前には相當の來荷あるべしと豫想さる(十九日)

◎開原より

開原取引所取引人として大連天益利支店萬合源八の三糧棧十八日許可を受け出願せり尚ほ通江口の瓦商恒豐隆も當地に分居を開設し取引人となる由▲十六日午後九時鉄嶺子附屬地に住し農業と質屋を營せる鳥倉仲作は拳銃を持てる匪賊五名に襲はれ慘殺されたり同賊は同夜同地に在る運輸公司に侵入し公司員賈春閣の所持金三十圓五十錢及び皮襖一件を奪ひ更に鳥倉の宅を襲ひたるものにして其行爲の大膽なる憎むべきの至りなり▲昌圖縣支署詰小松刑事は十六日夜華興東を襲へる匪賊追跡中賊彈に耳朶を打たれ負傷せり尚ほ同賊に傷けられたる扁順棧使用人某は傷後の經過不良にて生命危篤なりと云ふ

白山黒水

▲二三日前奉天南滿醫學堂で一場の演說を試みた稻葉君山氏は滿朝の支那民族に及ぼした功績といつたやうなはなしをした▲曰く滿洲朝廷は第一支那國內の內亂を平定した▲次ぎには領域を擴張した——西藏、新疆の方面まで——▲更らに文化の發達につくした——文學美術の保護發達から孔子廟を祀り文獻をつくつた——▲こいろんな例をあげて彼の支那勝史談を試みたさうな▲また內藤湖南博士は突差の演說依頼に快諾して日本の醫學と支那の醫學との關係を述べた▲曰く日本には元々漢法醫なるものがあつて醫學を支那に學んだが其後本元の支那では振はず日本で發達した▲その理由は支那では最初對症療法から溫補療法に變つたけれども日本では前者に對する實驗的研究をいふことに氣がついた▲その時個々西洋醫學が輸入されたので日本の醫學は勃然として進步した▲けれども支那はとう〳〵受納れなかつたといふやうなはなしであつた▲序にその時支那は天文、數學の如き方面の學問を盛んに採つて此の方面では大に進步した學者を出したといふことであつた。(奉天)

賑ふた京城の素人淨瑠璃

▽本年は天狗黨の當り年＝各派を通じて聽かれるのが殖えた

京城で素人淨瑠璃が盛んになつたのはこの數年以來の事である、別けて大正六年ほど賑はつた事はあるまい、今年は各師匠連の聯合會や各派の鼻比べがあつて下半季は殊に賑ひを極めた、今年に入つて

◆新顏の師匠二三名現はれたが重なるものを舉げて見ると竹本省登太夫、野澤文平、鶴澤小庄、竹本奈良梅、豐澤龍糸、竹本祖太夫、竹本梅若などでこの中文平、祖太夫は餘程以前他地へ去つた、現在天狗連は各派に所屬してゐる者や其他合せて百餘名あつて官吏、商人其他有ゆる階級を網羅してゐると云つても好い、擁護士連が他の黨派と全く離れた一派をつくつて公開せず、所謂座敷淨瑠璃を盛んに催したものだが

◆夏頃から長唄などの他派へ轉んだ人もあつて今ではこの一派の淨瑠璃會を見ない、それから殆んど官吏の中心となつてゐる一派もあるが之れは重に俱樂部などで公開してゐる、春秋の二季には何處の稽古場でも大會を催すがこの場合は劇場や寄席を撰んで殆んど競爭的にやる、何處でも斯う云ふ傾向はあるが京城は殊にこの色彩が甚しい或一派には師匠が連中の藝を推いて席順を定めるのもあり、又或一派には師匠が關係せず連中が抽籤で出演順を定める所もある、要するに素人淨瑠璃は天狗と呼ぶだけあつて

◆各派が聯合會でも催す場合には必ずこの出演順が問題となるやうだ、同じ黨派で月並會を開く時でも抽籤が好いとか惡るいとかで大分揉めるらしい、そこで京城の素人淨瑠璃を總括して云ふとこの一二年來盛んになつて來ただけ進境を見るに至つたのは事實である、是れは個人に就いて云ふので無いが各派を通じて兎に角淨瑠璃が聽かれるやうになつたと思ふ、是れには種々の原因もあるが年々淨瑠璃の趣味を解する者が殖ゑて來た事、云ひ換へれば

◆聽手の耳の肥えて來た事も確かに語り手をその域に導いた原因の一つであらう、個人に就て見れば別段玄人と並ぶほど上達した者が出た譯で無く、ツマリ一般を通じて聽き得る者が殖ゑたのだ、現に龍山なども祖太夫を聘してから一段の進境を見た、文樂一派の開演した事も天狗黨の參考となつたらしい、しかし京城には三味線彈きは割合に多いが太夫は尠ない、此點に於いて朝鮮に近い門司や博多邊に比べると遙かに劣つてゐる、京城の素人淨瑠璃が一層の進境を圖ろうとするには新進の太夫を聘ぶにある

◆或一派の連中には大阪から新進の師匠の招聘を企てたものもあつたが失敗に終つたと云ふ噂を聽た、大阪の消息通の便りを聽くに三味線彈きにしても太夫にしても相應に名の賣れた者は大阪を離れる事は難かしいとの事、別けて朝鮮へでも來る段になれば多額の報酬を出さねば應じない、此點から見ても門司や博多に比べると便利が惡るい、それは兎に角本年は京城の素人淨瑠璃に取つては豫想以上の好成績を收めた年であるから明年は一段の進境を見せて欲しい、京城には前記の師匠以外に稽古場を公開して居らぬ俗に云ふ素人師匠が澤山ゐるが是れ等の稽古場も盛んに公開して腕比べをしたら定めて面白い事だらう、是等の素人師匠に出入してゐる天狗連を合算すると京城の素人天狗は二百名以上に及ぶであらう(さしう生)

◎集會 [illegible]午後七時半本町三丁目舞鶴館にて[illegible]十二月二十三日(日曜)午後八時[illegible]

◎日本組合京城基督教會(南米倉町) 十二月廿三日午前九時半日曜學校及[illegible]午前十時半禮拜說教 [illegible]クリスマス

[illegible]丸は修繕の爲め二十一日限り入渠し代船として櫻丸運行すべし

◎連絡上陸客 二十一日

[illegible]太郞、制部和一郞、前川榕[illegible]信二、阿部[illegible]兄 同[illegible]佐[illegible]外人三名

演藝案內

本町五丁目 稻荷座

博多笑劇松葉屋組一座 自十二月十二日より

▲一番 妙な親分 二場 ▲二番 教育劇 割當り 三場 ▲三番 餘興 文人手踊 一場 ▲四番 義俠の藝者 三場

[illegible]

有樂館

[illegible]

明治町二丁目 浪花館 電話二六〇番

十二月二十一日より ○忘年演藝會 △京阪落語、手踊 △音曲、浪花節 (數名出演)

黃金館 電話二六三七 二二六六

[illegible]

櫻井町 大正館 電話八七三

[illegible]

防寒靴 製造販賣
並に毛皮なめし
壹圓六拾錢以上其他スリツパ
地方の注文は代金引替にて郵送
京城黃金町三丁目 大阪屋

歲暮御贈答品大賣出し
來る三十一日まで 福引景品券付き
ウヰスキー
ブランデー
ピーパーミンド
ベルモツト
フランス葡萄酒（籠詰箱詰）
千林檎
米國產葡萄
千葡萄
其他洋菓子 種々
景品券一圓每に一枚進上仕候
京城本町二丁目（元發化病院隣）
輸入元 大橋商店 電話一九六五番 京城肴[?]町

花柳病 外科 專門
606 婦人病 皮膚病 泌尿生殖器病 [illegible] ヒステリー
京城 司生堂醫院 電話[illegible]

歲暮贈答品
北海荒卷鮭
本場みかん
ならづけ樽詰
特製 外季節物各種取揃申候間御用命願上候
京城旭町 川西商店 電話一三六七番

關西デ一番ヨク勉強シテ一番品揃ノヨイ
化粧品石鹸問屋ハ コ、
伊勢勘号
大阪東區南久寶寺町三丁目 電話南長二八四一 振替大阪二一六五番

恩給年金 證券 公債 株券 立替
最長期 利安 通帳買入
大阪市日本橋北詰東入る大和町
明治卅九年一月創業 上州屋本店 電話膽南一一八〇

石材値上廣告
今般協儀の結果販賣價格二割値上實行可致候條此段廣告候也
京城石材採取販賣業者一同

旅行具專業
岩田鞄店
京城本町二丁目
電話[illegible]

謹告
私儀永年諸賢の御愛顧を蒙り居候處今回都合に依り退鮮可仕事に相成候に付ては拜趨御挨拶可申上筈の處匆々の際疎畧至致候段深く奉謝候就ては年末小拂弊店商品券の引換は京城本町一丁目砂糖商澁谷商店へ依賴致置候間同店へ商品券御持參被下度御願申上候右御挨拶旁謹告仕候也
大正六年十二月
各位
中村政商店

滋養美味
年末年始の御贈答品
元名山產 かきしほから
容器は高麗燒にして朝鮮土產の逸品なり
特價三十錢
製造發賣元 元山本町四丁目電話三六番 四三五番 振替京城一六〇八番
横山兄弟商會
至る處に有り

神經衰弱 特効
コーキリン
榮養ヲ增進シ神經衰耗ヲ補フヲ以テ神經衰弱、陰萎、榮養不良、結核諸症、腺病、重病回復期ニ適ス
本品ハ帝國大學教授本邦蛋白化學ノ泰斗タル鈴木博士ノ創製ニ係ル吸收性同化性ノ理想的有機性燐劑ナリ
各地有名藥店ニテ販賣ス
東京室町 三共株式會社

株式會社 朝鮮商業銀行
資本金 壹百萬圓
諸積立金 二十七萬餘圓
京城南大門通一丁目 電話五五八・五〇・六八一番 振替京城一六三四番
一般銀行業 倉庫業
頭取 趙鎭泰 支配人 豐田明敬
南大門支店 本町支店 仁川支店 平澤支店 群山支店 東大門出張所

左甚五郎

第百二十一席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

金六は父の意見を背きませんから傍に居た母親　母「コレ金六、お前は未だ酔が醒ないのだね、何うも心得違ひをいたしましたと詫るかと思へば家に居ては窮屈だから御言葉に従つて当分お暇を頂戴いたすとは何をいふことです　長「イヤ打捨つて置きなさい、呆れた奴だトツトと出て行け　金「ハイ私しも志を立て自分の家を出ますからには必ず世間に名の知られる様にならなければ決して御両親にお目にかゝりません　長「生意氣なことを

云ふな、染物屋の倅に不似合な口の利きかたをする、小むづかしいことを云へば宜いと思つて居る、心得違ひた奴だ、貴様の様な奴に何が出来るか、出て行け」初めの間は慈愛の籠る阿父さん、軟かく云つて聞かして居たが、餘り金六が言葉に逆ふ故遂に本統に怒つてしまひました、奉公人と共に働いて居りました兄の長蔵が此の事を聞いて大きに驚き、早速飛んで来て共々阿父さんに詫事をしやうとしたが、肝腎の弟が承知をしない為に詫の為やうも無い、乃で據ろなくでは「お前の心のまゝにするが宜い然し是から先酒を慎めよ、何になれば云てお前の様に酒を飲めば自分の望みを為遂げぬ内に身體を損じる様なことになる」と

先々のことまで云つて聞かして廿五両の餞金をくれた、金六は自分の部屋へ入つて身の周囲の物をコソ〳〵と支度をして、日頃自分が遣つて居る筆墨の類を一と纏にいたし悠然と加州金澤を飛び出し、己れの好むのは畫であるから何うか畫を以て世の中に名前を揚げやう、それに就ては皇城の地京都へ行くに若ずと京都を指して乗込み、それから其處へと手蔓を求めて其頃の大家狩野永徳の家へ住込んで狩野派を學びました師匠の永徳も

河に見どころがあるもの行く〳〵は山楽友松等と共に狩野一派の重鎮となるべき者と熱心に教へましたが、此の金六名を改めて信吉となつた、持つたが病とは能く云つたもので、一時つゝしみも此頃は時々又酒を飲み始めて失態をする、幾ら意見をしても肯かない、永徳は惜しい弟子とは思ひましたが、信吉一人の為に他門弟の為にもなりませんから、據ろなく後を戒めて放逐いたしました、信吉は今更夢の覚めた様此先何うしやうかと殆んど當惑いたしましたが、素より後年名を為す人でございます狩野派ばかりが畫工では無い今度は雲谷派へ入て雪舟の流義を窮めようといふので当時雲谷派で有名な雪林に就て學び其畫風を極めま

した、斯うなると信吉狩野と號し國の風景を眺め、狩野を名乗りたくも無し雲谷を名乗りたくも無い、一ツ長谷川派といふ流名を起して見たいと其の時から長谷川等伯と名乗り、京都にばかり居ても技が狹い畫工は他人の描いたるのを見たり話しを聞いて描くやうなことでは駄目だ、諸國を廻つて多

牛乳御用　京城東四軒町　岡野牧場　電話一〇六九番

くの景色花鳥山水に觸れてそれを映してこそ眞に近い畫が出来るものだと、是から畫の道具と衣類を持つて飄然と諸所を出て歩く、雨が降れば宿に滞て閑靜の所を求めて思ふに畫を描いて過ぎ、併し此の等伯は少し山氣があつて田舎などへ行つて狩野派の盛んな處だと思ふと、狩野信吉と名乗り、雲谷派の盛んな處では雲谷派だと云つて居たが、實際兩派共に巧みなものでございます現しも三月桜の盛り嵯峨嵐山が見頃と聞いて等伯は畫を持つて出懸

質　本多質店　京城太平通二丁目

けきしたが、四方の景色に恍惚として足を止め群集の酒を飲んで浮打を咎し、筆を執つて其の景色を寫生いたしきする、其内に日も西山に傾き見物の人も絶ね、山寺で撞出す暮六ツの鐘にハラ〳〵と花の散る風情は得も云はれず、等伯は心地快げに風に吹かれて居りました、傍に鳥の急ぐる晩の暮るを知らせます。

十二月廿四日九星　舊十一月十日丙子　本命一白北建殺引

▲一白 [illegible] ▲二黒 [illegible] ▲三碧 [illegible] ▲四緑 [illegible] ▲五黄 [illegible] ▲六白 [illegible] ▲七赤 [illegible] ▲八白 [illegible] ▲九紫 [illegible]

▲告廣

業務親切　倉庫完全
明治町三丁目（交番東小路）
片山質店
電話二六五二番　振替京城三七〇五番
勸業貯蓄債券高價買入

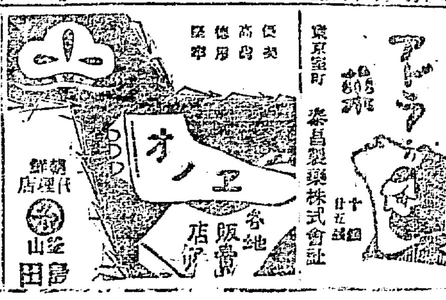
商業登記公告

[illegible]

京城地方法院

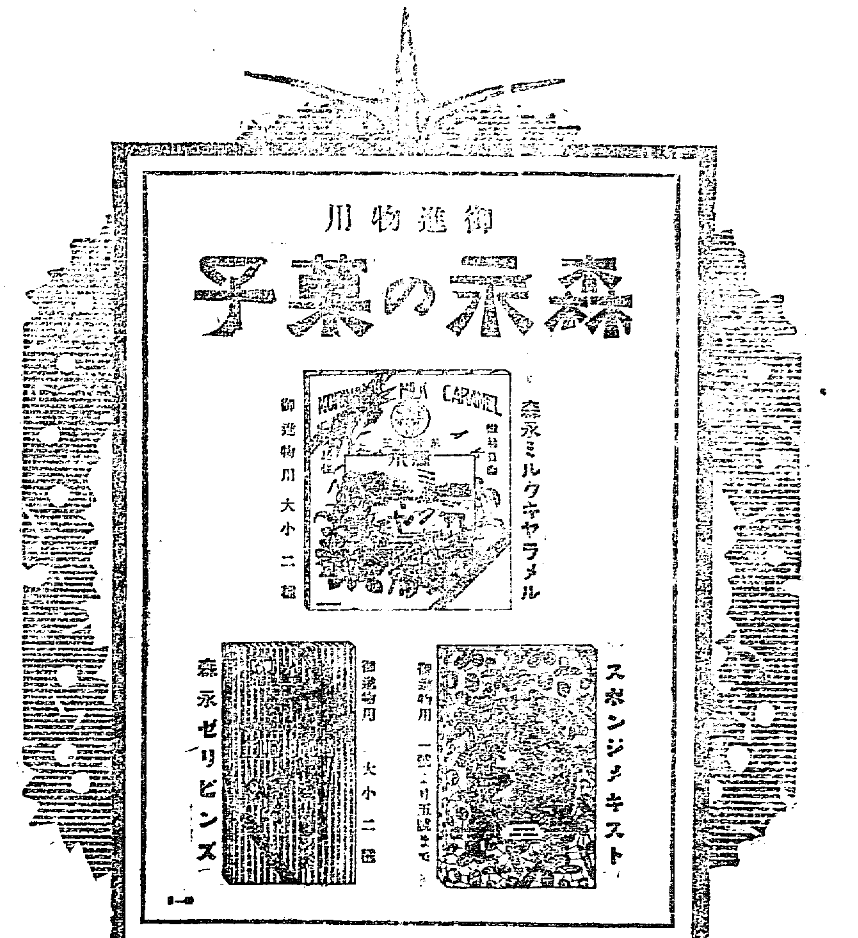
冬物賣出し　[illegible]呉服類　[illegible]

和服類中古品　[illegible]　和洋衣服商　金子奥市商店　電話百五番



東京室町　泰昌製薬株式會社
代理店　朝鮮　山田

道しるべ



おくつて體裁よく、もらつて重寶な……
歳末・年始の御贈答として
冬の肌アレを防ぎ色白くなる　ホーカー液
中瓶大瓶は一本宛桐箱入
白さの際立つ新發見の　ホーカー白粉
三個入進物箱は頗る優美
定價　ホーカー液中瓶[illegible]　ホーカー白粉一瓶[illegible]
本舗　東京神田　堀越嘉太郎商店

資本金壹千萬圓
頭取　安田善三郎
★株式會社百三十銀行京城支店
京城本町壹丁目
電話五八番　振替貯金京城一一九四番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候為換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地有之候

京城明治町二丁目（元漢城病院下横通）電話一三四〇番　院長　衣笠義
中央婦人病院

大日本優等清酒

品質純良　衛生無害
醸造元　灘津西宮　嘉納合名會社
發賣元　京城本町二丁目廿番地　前田酒店　電話一三七番　振替口座四二五番

内科　胃腸病
診察夜九時迄
京城本町一丁目　石川醫院　電話一三七

特　甲　乙

最新式仕立　背廣冬服（三ツ揃）
特（スコツチ、霜降メルトン、紺メルトン）金參拾九圓
甲（ラクダメルトン、スコツチ、ホームスパン）金參拾六圓
乙（紺メルトン、スコツチ、メルトン）金參拾圓
△オーバーコート　特、金參拾七圓　甲、金參拾四圓　乙、金貳拾八圓五拾錢也
△オーバーコート專用厚地羅紗揃居候
○地方は御申越次第見本帖と寸法取圖御送付可申上候
△送料　鮮内二十錢　外五十錢
京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番
京城日報社代理部

小島氏発明
カスミ網
（海上網糸製）〇其他雁鴨兎網無双網等種々あり
京城永楽町二丁目　古海商會

優等清酒

醸造元　廣島縣西條町　木村静彦
發賣元　京城府鍾路（中央）　河野酒店　電話一三〇八番

小兒科　眼科　内科
京城黄金町三丁目赤門通（電車停留所前）　本田醫院
院長　本田建義
分院　京城肛門病痔疾療院
肛門病の諸痔疾特種注射根治療法解説書入用の方は郵券十二錢要す

京城日報　十二月二十三日　（朝夕刊併せて八頁）

支那漫遊

月夜の登岱

蘇峰生

泰安府より山轎に乘りて、岱よ登山の途に就きたるは、已に十一月廿五日午後五時を過ぎたりし也。而も一望の山嶺や、徐ろに轎を作なる轎夫の中にして、荒く組みたる網に毛布を敷きて、腰を卸し、後より左右に渡りたる木に、背を凭せて、而して腰掛の兩端より紐にて、細長き小板を釣り下げたるに、兩趾を踏ゆ。乃ち脚は轎椅と共に、宙にブラ／＼として、搖きつゝある也。而して轎夫は、椅子の左右に二本の長く扁らたき棒を貫き、其の兩端に革帶を繋ぎ、之を斜に肩より掛け、兩手に其の棒を把りつゝ、或時は之を前後に擔ぎ、或時は之を筋違に擔ぎ、或時は之を左右に擔ぐ。即ち時に併行したり、時に斜線たり、時に縦線たり。概して平路は、轎夫我が前後にあり、險路は我が左右にあり。而して其の息を入れ、肩を代ふる際に往々突如として轎を廻轉せしむれば轎上の凡骨に取りては、極めて好都合也。而して轎夫の熟練も、矯健なる、絶壁を攀づる、平地の如し。蓋し此の轎や泰山の特有にして、俗に之を爬山虎と稱すと聞く。

初冬の日脚は短く、日已に晩れたり。されど舊暦十一夜の月色は晝の如く、登山には何等の差支なし。元來泰山は、海拔五千四五百尺の石山にして、世界の高山に伍するには、餘りに低しと云ふ可きも。支那に於ては、五嶽の宗に數へられ、舜の東巡して、此に來りしを始めとし、秦皇、漢武以來、唐宗、宋眞宗より、近くは康熙、乾隆帝に到る迄、支那歴代の帝王の親しく巡幸し、且つ其の崇敬を鍾めたる靈山也。而して孔夫子が此山に登りて、天下を小なりとしたる以來、古今の詩人文士、杜少陵を始めとして、登臨題詠の士、固より勝げて數ふ可らず。近日日本人の勢力が、山東の一角に伸張したると同時に、其の登山者亦た少からず。特に本年支那巡禮者の多きが爲めに、登山者の多きも必然の結果也。乃ち予等も亦た、其多分に漏れざる仲間と云ふ可き歟。

予等は其の第一門たる岱宗坊の下門を、歸途に過ぎることゝなし、先づ間道より石逕を踏みて上る。明月天にあり、樹影地にあり、石磴細く連り、蜿蜒して行く。王母池の前にて本道に合し、一天門を入り、紅門宮を過ぎ、[illegible]路を闢き近く物の影を踏みつゝ進む。石磴層々相ひ連り、[illegible]の幾級たるを知らず。[illegible]二里程の、二里内外なるも、[illegible]其の盡き所は三四百以上にも及ぶ可し。[illegible]凡そ六千七百餘級。道の兩側は、[illegible]柏樹也。但だ七合目以上は然らず。石磴兩側柏樹間。一斗母宮、經石峪、[illegible]、一快心事。踏月孫翁…斗母宮に著く。高仙橋を過ぎ、[illegible]歩み[illegible]。回馬嶺也。此處より[illegible]中天門に至る。此處が登山の半途にして、轎夫は何れも此處に憩ふ。[illegible]。

[illegible]也。初めて[illegible]石級を下りて、予は其の三分の二は轎に乘り、予は心を安んじて歩せり。是れ轎夫は足の疲勞の如きは、本來は野の性とも意とするに足らざれば也。

…中天門より[illegible]一歩一歩苟もせざるは、其の他なき也。予は[illegible]、餘りに氣持もよからず、[illegible]所を轎にブラ／＼揺られながら、[illegible]來るは、[illegible]大いに減じたるも。此の所を設けたれば、其の[illegible]今は天門を、南天門と稱す。石磴[illegible]觀面兩脚不聞。

[illegible]也。初より此の道一行十餘歩一休、稍[illegible]、所謂路、[illegible]。或人曰、如登天梯[illegible]。[illegible]天門之下、俯視[illegible]。

…[illegible]石磴の中間に[illegible]目あるも、下より見上ぐれば、[illegible]一線空に掛りたるの概あり。[illegible]

漸入佳境

十一月廿六日午前六時、蒸し立の饅頭を快喫し、七時前に出發す。予等は徒歩横徑より、石經峪に赴く。石經峪は、澗中に横る一枚の大磐石に、金剛經を大書彫刻したるもの、今ま存するもの千字に餘り、其の字尺に餘り、然も奇古、[illegible]

…石經峪の[illegible]、十八盤に差し掛る。[illegible]一夫當關[illegible]。[illegible]朝陽洞を過ぎれば、盤々泰山第一の險所なり、十八盤に差し掛る。下より仰げば、要害男阪の如きも、遙かに雲に連る。泰山の石磴六千數百級、而して此の十八盤のみにて、千八百餘級ありと云ふ。

但だ藩主が、隨行の支那巡警兩人を、是非予等と同室に、宿泊せしめんとの要求は、遺憾ながら之を拒絶せり。蓋し支那に於ては、巡警、兵士は、概ね良民の厄介物にして、彼等を尼寺に放つけ、恐らくは虎を野に放つと一般ならむ。是れ彼等の監視を、予等に託したるならむ。此に於てか保護せらる可き予等は、却て巡警を取締り、彼等を隣室に宿せしめ、斯くて無事なるを得たり。而して予等の夢も亦た安らかなりき。

…[illegible]斗母宮に著く。[illegible]客を宿らす。…宮に入り、[illegible]女道士の居也。…やがて御馳走に預る。普通の支那料理也。[illegible]。何時でも[illegible]此處に一泊し、若き女道士を見て之を喜び、強ひて携へりて遁俗せしめたりと云ふ。未だ其の眞否を詳にせず。予等には其の老婆が、挨拶に來りしのみ。

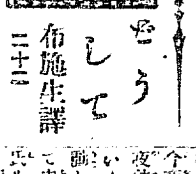
…[illegible]此邊より盡きて松となる。松は日本流の落々たる長松にあらずして何れも匠木の如き、剛盤の枝振り妙、我が平庭百穗君なりして、筆を抛せ、同遊せしめざるを惜む。…所謂五大夫松は、今や二株のみ存す。此れより又た大夫松は、秦皇が、松陰に風雨を避け、為めに松を封じたりと云ふ五株の一也。此れより又た八仙の[illegible]也。朝陽洞に到る。急勾配を攀ぢて、朝陽洞に到る。乾隆帝の高大碑は、澗を隔てゝ之を見るを得可し。一字の大さ三四尺、陝師碑として、厲王宗のそれに讓る莫し。

朝鮮古墳の變遷（三）

八木奘三郎

(2) 石槨の構造と其起源

樂浪、帶方時代の古墳中には往々木製若くは塼製の槨有りて、但し甎槨は未だ之を見ずと雖も、柳槨は割合に多きが如し。而して木槨は初葬當時に於て必ずや凡ての墓中に存せしならんも、今日腐朽せずして世に遺らん者は恐くは一二に過ぎず。去れば此槨に付ては其詳細を知る可からざるも、樣は幸ひに僅かに多きに依り、之に因て當時の制度、品質、構造等を明にするを得可し。今右の諸例を見るに木槨は下部二尺内外の高さに川石を積で四方の槨材の根固めとなし、更に天井に板を並べて後に天井等を覆ひしもので、又前の根固めの石を並べて天井等を覆ひしもので、又其の根固めを借らず四方の槨材の外方に單に木材のみにて槨室を造りしもの、の別あり。而して槨室の大きは一丈二尺以上の方形なるもの先づ最大の分にして以下は漸次に其尺寸を減ずるが如し。又是等の木槨は四方板張りの如くなれ共、其下部の厚さ即ち板の厚みの部分が餘りて連合（通路）あり。而して其上部は縦に押合の例あり。又入口には…ぬ（丸形）形に造れり。蓋し是等は古墳は其現存の土地と一致せる記號とに依りて或は樂浪と稱せらるれ、又は帶方と呼ばるれども、其年代上に於ては共に大なる差異あるにあらざるなり。但し右の傳承に就ては從來の學者間に議論あり、予は史學上古墳の沿革の順序より見て當に斯く觀察を說かざれば、其下の東洋史的の關係を記述し居れぬによりて下に其事情を記すも可し。



さうして

布施生譯

二十二

翌朝は武烈氏が何處かへ旅行しようかと云ふ消息が庭女から漏れた。何處へ往くのか何時行くのか其の悲しさに其處までは分らない。が出發は早朝らしいと云ふ事は何時の間にか國栖の耳にも入つた。國栖は何處かで待受けて武烈氏がオロロンまでの切符を買ふのを聞き濟まし自分も同じ處までを志して汽車に乘つた、尤も二等室は別にしました。

さうして又武烈氏が今何處に思ひ立つて旅行をするのだらう、と思ふ場所もあらうに選りに選つて態々かう云ふやうな淋しい所に宿を取らうと云ふのか、

…すコロンと云ふやうな淺間邊まで行ける筈だから、國栖は道々それを思ひ續けた。晩の五時頃やつとオロロンへ着いたやれ／＼と思ひまして。何しろ同じ汽車にゐるのだから何時何處で逢ふかも知れないと云ふので、心配らしく武烈氏はまだ何かを捉へて目配せや何かを聞合せて居る。國栖は汽車を降りても落着いた風をして居た。

…ませんや「亭主は喫煙管をやつて、「五兵衛の衛尾張が…」と云ふ次第でございます、何しろ男も女も子供まで馬や車や思ひ／＼に修飾こんで式の律に立つた…界隈の名物だつたでなあ、…と云ふ次第でございまする。…三十度も立てて居るに…

…でも明日の朝までお待になりませうか、いや旦那、といふ…「それは今夜は驛前へ往きたいんだ、今夜往ければ幾許でも亭主は出すがさう」と國栖は…が已に急んだよ。…いくら頼んでも亭主は頭を振つて御かなかつた。國栖は奥を脛まして力なく片隅へ腰を卸す處へ武烈氏が這入つてきて國栖同樣の談判を始めたが亭主は矢張り應じない。武烈氏は餘程焦慮て憤つたり賺したり勿論金に糸目はつけぬ樣子をも示した事は言ふ迄もないがいくら金でも實際無いものは仕方がない。其間二人とも斷念て其夜は甘んじて田舍宿屋に泊まる事に一決した。武烈氏は不味い田舍料理に義理だけ箸をつけると其儘さつさと部屋に引込みとうとう朝まで顔を出さなかつた。そして如何亭主を丸めたものか宿帳もつけず氏が泊つてゐる事は村の人誰一人知らさずに濟ました。

株式名義書換停止

來ル十二月二十四日ヨリ當行第貳拾參期定時株主總會終了ノ日迄株式名義書換ヲ停止ス

大正六年十二月二十二日

株式會社朝鮮商業銀行

本年新潟苔は稀有之豐作品質良好價格日々下落仕候に付此際御注文被下度候

東京市京橋區南鍋町一丁目

山形屋海苔店

物價騰貴の影響なく廣告御進物として適好の

圖書切手

△金一圓以上御求めに應じます
△京城・釜山・旅順・京城本町…各地の書店間は勿論共通致候

東京・京城・釜山・旅順

大阪屋號書店

電話六八四番・二〇八六番

貴金屬品　時計各種

其他新著

平素の御愛顧に酬る爲め十二月三十一日まで

割引販賣仕候

仁川本町　糸數商店

電話三七〇番　振替京城七〇一番

朝鮮製絲株式會社

景品附大賣出し

常籤番號左の如し

一等（一個賞）　一貳三貳番

同　貳三番

二等　四七番　一二八七番　二貳六一番

三等（銘名一反宛）　一七七五　一四四　一一〇一

四等（女帶地一反宛）　一〇九　二六四…

五等（蒲團綿一反宛）

六等

七等八十本、八等二千本、九等六百本、十等五十本は茲に省略す

三等	一七七五　一六七七　一五五六	一四四 / 一六八九 / 一一〇一
四等	一〇九　一三九五　二〇九三　五九二六　二九三	一七七〇 / 一六七三 / 二〇二四 / 一二六一四 / 一一七二九
五等	三三四　一三三二　二〇五六　三四四四　八二一四	[illegible]

新春家庭號

婦人界

◎口繪
◎新春（顔面用美人畫）……伊藤小坡女史筆
◎皇后陛下の御一家揃うて……お正月のお支度……
小說不如歸　浪子（大山公爵令嬢信子）新婚撮影寫眞
◎新しき年を如何に迎ふべきか……江原素六
◎正月の樂みに貧富の別なし……伊藤眞勝
◎正月の家事と主婦の注意……山脇房子

お正月の家事
○心得べき正月の作法……
○お正月の子供の遊び……
○家事帳を新にして……
○正月の重詰料理……
○お居間と正月の飾りつけ……

新年大附錄　新世帶双六

◎お正月と子供の食べ過ぎ……
◎樂しかつたお正月……
◎上手な歌留多の取り方……

○羽子板と羽根の話……
○子供へ土産物調へ……
○お正月の活け花……
○江戸時代のお正月……
○子供の書き方……
○年賀狀の失敗……
○新春の食卓……

新年　小說「不如歸」の實話（一）

小說「不如歸」は德富蘆花氏の著で、版を重ねること百餘版、篇中の主人公武男と、浪子に熱烈な同情の涙を灑がぬものはありません。而して浪子とは大山公爵令嬢信子を、武男とは子爵三島彌太郎氏をモデルにしたもので あることは世間周知の事實であります。しかしその時と評判とには、大いに誤傳が尠なくないので、大山、三島兩家とも迷惑されてゐるといふことです。本誌はその間の消息に通ぜらるゝ方面から、實際の材料を蒐めてこゝに新年號より連載することにいたしました。この記事一たび現はれて、「名著不如歸」の眞相が闡明されたといはねばなりません。口繪大山公爵令嬢の寫眞と對照して御覽下されば、確に小說「不如歸」以上の感興を覺ねらるゝことゝ信じます。

名流婦人の噂とりぐ

新婚當時のお正月

○夫のフロック姿むぐらの湯の宿へ…
○食客で迎へた新年…
○元日からお二人連かなめ…
○お酒を強ひられるながれ…
○娘時代に返つて…
○餠を送れと電報くる…

◎長篇小說　野菊（新年號より愈佳境に入る）　小嚴谷波
◎長篇講談　押上鶴（婦人向きの面白い講談）　一龍齋貞山

本號に限り特價二十五錢（郵稅二錢）半年特別號共前金一圓卅錢　一年同二圓卅錢

婦人畫報・婦人界・少女畫報・日本幼年

東京京橋區疊町一　振替東京九百番　電話京橋四六一番

發行所　東京社

◎支那歐洲出兵か

▽聯合國援助せん

支那歐洲出兵に就き參戰事宣督辦段祺瑞氏は聯合各國公使と協議を進め且つ米國公使と特別に交渉を進めつゝあるが米國は支那兵の輸送を一手に引受け又英、佛、米三國共同して軍費軍器其他必需品を供給する約束成立しつゝあり（北京電報）

▲支那政府にては歐洲出兵に關する協議進捗し米國は之に要する船舶十五隻を提供し無償にて輸送する事に內定せり（北京特電）

▲支那交通部員顏氏は二十一日長春に來り吉林にて孟督軍と面會したるが二十三日哈爾賓へ赴き露國側と支那出兵に關する交渉の緒に就く由（長春特電）

東露の形勢

▲露兵撤退要求

▽支那の對過激派通牒

支那政府は聯合國公使團の意嚮を含み哈爾賓に於ける過激派に對し四十八時間を限りて露國軍隊を同地より撤退す可く通牒せり（北京特電）

●北京政府強硬方針決定

北京政府は哈爾賓問題に關し都合に依りホルワット將軍一派の穏健派を助け過激派軍隊との衝突をも辭せず飽く迄強硬の方針を執るに決したり（奉天特電）

▲トロツキー外相の逆捻じ

露國過激派外相トロツキー氏は陳述して曰く外國軍隊の小部隊哈爾賓の露國租界地帶に到著せり多分同地中產派の懇請に依りし事と思惟さるゝも過激派政府は守備隊に向て斯かる部隊の招致に關係ある者全部の捕縛を命じ倘到著部隊に對しては至急其の引揚を要請したりと（露都電報）

▲自稱執政官捕縛

十九日哈爾賓過激派の自稱執政官は露人倶樂部に至り賭博者を捕縛せんとせしより倶樂部員はホルワット長官に訴へ出で長官は之を支那軍隊に通じ彼等をして却て自稱執政官を捕縛せしめたり（長春特電）

▲政權讓渡の命令

露都過激派の執政官より十七日哈爾賓執行委員會に向け『政權を勞兵會に引き繼ぐべし』との命令來れるより二十二日執行委員會を開き態度を決定する筈なるも之に服從せざる者多數なる可しと觀測さる（長春特電）

◎露都戒嚴の布告

露都來電＝過激派政府は今やペトログラードが戒嚴狀態にあるを布告し之と同時に市街に於る總ての集會は禁止せられ掠奪者は即時射殺さる可く爾後何人と雖も同市より出づるを許されず（倫敦電報）

◎露獨間通商開始

目下リガ、ドウイスク及び芬蘭海岸各要地にて露獨兩國の商業貿易開始せられたるもの如く芬蘭にては既に若干の獨逸商品を輸入せりと傳へらる（露都電報）

◎曹督軍南下打電

直隸督軍曹錕氏は湖北の王督軍に打電し既に第一軍司令の命を奉じ第三師及び新編混成旅[illegible]……せざるも大勢は全く之に傾き居れるを以て馮總統は山東、奉天、安徽、直隸四督軍に對し出兵中止の旨を內命[illegible]

◎各元老の宮中會議

山縣松方兩元老西園寺侯等は二十二日午前十時二十分相前後して參內御座所にて拜謁仰付けられ終りて宮中西一の間にて重要なる會議を開き正午午餐を拜受し更に會議を續行し午後二時退散せり（東京電報）

◎豫算內示

首相官邸にて

二十二日午前十一時より永田町首相官邸にて七年度豫算內示會を開き德川貴族院議長上院各派交渉委員柳田書記官長を招待首相は各大臣有松法制局長官兒玉翰長一木次官等を從へ出席豫算の概要に就き財政計畫の大體を演說し勝田藏相より大體的數字に就き說明あり出席者と藏相との間に一二質問應答あり終りて午餐會を開き一時過ぎ散會同日午後五時より衆議院正副議長寺田翰長下院各派交渉委員を同じく招待同樣の說明あり晚餐を共にせる後午後七時散會したり（東京特電）

◎下院各派交渉會

衆議院各派交渉會は廿二日午前十時より院內議長室に開會大岡濱田正副議長を始め廣岡宇一郎望月圭介兒玉亮(政友會)小泉又次郎紫安新九郎賴母木桂吉(憲政會)前川虎造(國民黨)[illegible]の諸氏並に寺田書記官長出席第四十議會召集に關し協議の結果左の如く協定し十一時散會（東京特電）

▲奉答文起草委員は十八名とする事

▲議席は大體前議會通りとする事

▲議案審理は休會後に決定する事

▲其他常任委員割當の件等

◎山尾子爵薨去

正二位勳一等子爵山尾庸三翁は豫て病氣療養中の處二十二日朝遂に逝去せり享年八十一歲（東京特電）

▲故子爵閱歷 [illegible]

◎青山博士陞敍

青山胤通博士危篤の趣天聽に達するや十三日特旨を以て右の如く位階陞敍の御沙汰ありたり（東京特電）

從三位勳一等男爵 青山胤通

敍正三位

◎林公使通過期

林駐支公使は二十八日午後六時半安東縣通過歸國の豫定なり（安東縣特電）

◎大正六年の朝鮮貿易

輸移出七千八百五十八萬圓＝輸移入九千六百七十餘萬圓＝前年に比し著しき增進

本年の貿易額（十二月十五日迄の計數とす）は(一)貨物に於て輸移出七千八百五十八萬餘圓輸移入九千六百七十萬餘圓合計一億七千五百二十九萬餘圓にして

▲前年同期に比し輸移出二千七百九十一萬餘圓（五割五分）輸移入二千六百四十八萬餘圓（三割八分）合計五千四百三十九萬餘圓（四割五分）を增進し(二)地金銀は輸移出九百十六萬餘圓輸移入十九萬餘圓合計九百三十二萬餘圓にして前年同期に比し輸移出六百十三萬餘圓（四割）輸移入百十一萬餘圓（八割八分）合計七百二十四萬餘圓（四割四分）を減退し(三)以上を合計せば輸移出八千七百七十五萬餘圓輸移入九千六百八十六萬餘圓合計一億八千四百六十二萬餘圓を計上し之を前年同期に比較するときは輸移出二千百七十七萬餘圓（三割一分）輸移入三千五百三十六萬餘圓（五割六分）合計四千七百十四萬餘圓（四割一分）の增進なりとす左に貿易額前年比較表を示す

貿易額前年比較表（圓）

		大正六年	大正五年
貨物	輸移出	[illegible]	[illegible]
	輸移入	[illegible]	[illegible]
	計	[illegible]	[illegible]
金銀地金	輸移出	[illegible]	[illegible]
	輸移入	[illegible]	[illegible]
	計	[illegible]	[illegible]
合計	輸移出	[illegible]	[illegible]
	輸移入	[illegible]	[illegible]
	計	[illegible]	[illegible]
輸移入超過		[illegible]	[illegible]

備考本表の計數は總て十二月十五日迄の分とす

以上の如く本年の貿易は出入共に前年に比し著しき增進を示せるのみならずンを五年前の大正元年の貿易額に比するときは殆んど倍額に達せんとするの盛況を示せり蓋し數年來の累計に於て既に倍額に達せんとする進展と稱すべし顧ふに一般物價の昂騰に伴ひ出入品價額の膨大せること固より其一因たるや論を俟たずと雖も朝鮮に於ける各種產業の發達による生產品の增加、企業界の殷盛及び穀價騰貴に伴ふ一般經濟界の好況等之が主因をなせるは疑を容れざる所なり更に出入

▲貿易の權衡

を觀るに前表の如く本年貿易額に於て輸移入超過額九千十一萬餘圓を示し前年入超額に比し四百八十二萬餘圓を增加せりと雖も畢竟金地金に於て[illegible]等一時的原因に基き移出極めて不振なりし結果にして一般貨物に就き之を見るときは輸移出は輸移入に比し增進の顯著なるものありしを以て入超額は前年に比し反て四十三萬餘圓を減少し結局入超額は年を追うて漸減の趨向を示しつゝあり今既往六年間に於ける貿易の趨勢を表示すれば左の如し

貿易額六年對照（四）

	輸移出	輸移入
大正六年（十二月十五日迄）	[illegible]	[illegible]
大正五年	[illegible]	[illegible]
大正四年	[illegible]	[illegible]
大正三年	[illegible]	[illegible]
大正二年	[illegible]	[illegible]
大正元年	[illegible]	[illegible]

備考 本表は金銀地金を含む（以下夕刊に續く）

◎物價大勢騰貴

朝鮮銀行調查十一月中に於ける京城重要品の物價騰落狀況を聞くに生產品は騰貴九品保合二品低落七品を示し輸移入品は騰貴七品保合四品低落三品を示し大勢は依然騰貴しつゝあり各品別に擧ぐれば左の如し

△朝鮮生產品

▲騰貴九品 玄米、大麥、小麥、大豆、小豆、葉煙草、綿原綿、松薪、炭

▲保合二品 松挽材、紙

▲低落七品 精米、粟、明太、鹽、木棉、牛皮、牛蠟

△輸移入品

▲騰貴七品 麥粉、清酒、麥酒、綿絲、和金巾、棉花、石油

▲保合四品 醬油、支那絹、洋紙、石炭

▲低落三品 精糖、マッチ、金物

◎韓大衞氏歸米

京城開業の齒科醫デジイットハーン（韓大衞）氏はクリスマス濟み次第歸米シカゴ大學齒科の講習を了し五月末までに歸鮮の希望にて歸米するやの噂は訛傳にて氏は何等召集令に接し居らず

◎政務總監張宴

石塚總裁招待

山縣政務總監は來る二十五日午後六時より東拓總裁石塚英藏氏近く東上に付送別宴を朝鮮ホテルに招待の筈なるが總裁は各部局長官等臨席の送別の宴を張り各部局長官等臨席の外實業家側の送別會開催申込には病中且つ俗務時々來訪すれば迚て其の好意のみを受け出席を謝絶したるが今回總監の招待は多年長上並に同僚として親近せし人々のみの內輪の會合に付總裁も辭するに由なく招待に應ぜしもの如し倘石塚總裁は背部切腫は殆んど快癒に赴きを以て愈々二十七日午前八時四十分南大門發列車にて東上すべし

◎人見局長歸任

支那視察中なりし人見鐵道局長は二十二日午後七時三十分南大門驛著列車にて歸京せり

◎加奈陀少將通過

獨佛戰線より歸國の途に在る加奈陀少將ベル氏は浦鹽迄直行の途中夫人同伴二十二日夜南大門驛通過南行せり氏は東京に一兩日滯在の上便船あり次第歸國すべし

◎山崎氏出發期

山崎猛氏は家族引纏め愈々二十四日朝南大門驛發南行列車にて出發す可し

◎支那見聞談 その一

內藤湖南博士講演の梗概

私は丁度今から四年程前に北方に出張した事がありまして[illegible]

由來東亞の大勢と言ふものを考へて見ますと今日日本が東亞に於ける地位其他の變遷と言ふものは非常に顯著なるものがあるのを見て居るのでありまするに以上其所に自ら運命と言ふ樣なものを自覺せずには居られないのであります今日私は青島に著きまして其れから南上海杭州蘇州漢口地方を經て北京に到つたのでありますが青島あたりでも盛んに日本の人が働いて居られるのを見ました而して之れから以後日本の勢力と言ふものが段々と進展して種々なる關係に向け益々深甚の域に進んで參りまするに伴隨して孰れかの殖民地で經驗なされた方が矢張り一番先に先へ先へと進んで行かれるのでありまして單に支那の爲めであると言ふ者へ而已ならず極東の政策上悅ぶべき現象であると言ふ者へであります斯んな事は古來の例證を擧げて說明する事も出來るのでありまして實際吾人は何時支那へ向つて發展するかも知れないのでありますが即ち空論でなくて幾多類例のある實際論なのであります其所で以前から多少なりとも支那の事に就いて自分の意見を述べて來た私が今度二個月ばかりで支那を見て來たのでありますから其の話す所も或は諸君が先へ先へと進んで行かれる時に聊かでも爲めに成る事があるかも知れません考へは少しも纏まつて居りませんけれど唯だ閱歷を御紹介する事にしたいと思つて居ます私は實際非常に幸運でした丁度支那旅行中も天候に由つて無事を得たのでありますが今又此方でも朝鮮の話とか何とかでなくて自分が話し度いと思つて居たを要求されたと言ふ事は此れも天祐でありますが其れで私は此の前北京に參りましたのが明治四十三年で今から七年目前の事でありまして滿洲へは四十五年に行きました支那南方へは長らく參らなかつたのでありまして上海には三十五年に漢口、紹興には三十二年以來行つた事が無かつたのでありました其れで此の度之等の地方へ參りまして自分の見た所を御話しますと以前に行つた當時に比べては勿論各地に於ける貿易額或は商業貿易其他の發展致して居ると言ふ事は明かなる事實でありますけれど其れが爲め果して支那其のものが發達進步致したかと言ふ事は疑問であります

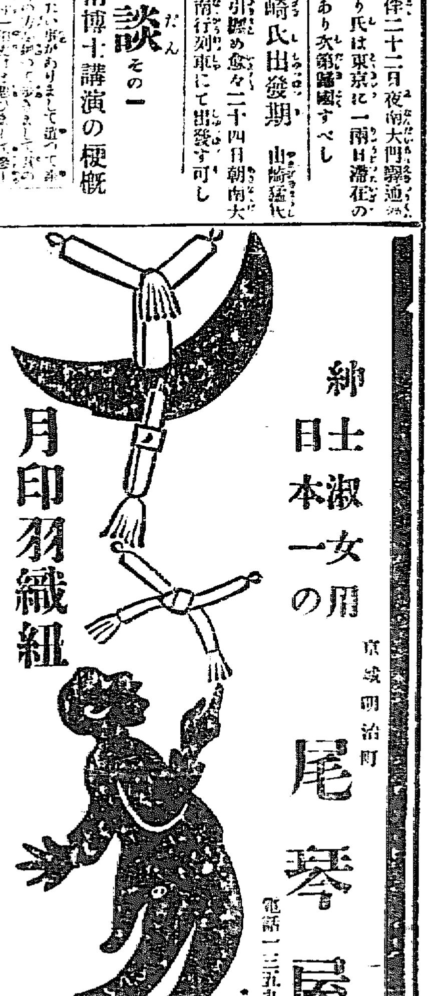
人事消息

▲閔丙奭氏（李王職長官）廿三日朝發東上の筈

◎百匿百種

青山博士も遂に起たぬらしいが危篤に陷つてから大分能く保たれて居る▲博士には大分逸話もあるが博士は有名な健啖家でお客を招く場合には自分の料理は二人前賴んで置てペロリと平げるのが常だつた▲其れも日本料理の樣な淡泊なものでは詰まらないと『洋食は主として材料に獸肉を使つてゐるから脂肪分が強くて甘まい』と言ひ〳〵何時もフォークを動かして居たものだ▲或時振つた話がある某華族に危篤な病人があつて博士に來診を賴んだ▲丁度其の華族は新邸を造つたばかりの時だつたので應接室なども凝つたもので壯麗目を驚かすものであつた▲案內に出た執事君先づ自慢の鼻をうごめかしながら博士を應接室に誘ひ茶菓を運んで紹介と云ふ處▲幾等待つても一向病室に案內せずヤレ彼の裝飾ソレ彼の卓子と其所許りで持ち切り▲何と思つたか博士はツト立ち上つて『僕は應接室の診察に來たのでは無から之で失禮する』と言ひ棄てゝサッサと立ち歸つた

[illegible]迄見送りて東京に引返し一使船運[illegible]他を訪問し新義州ホテルに一泊の上二十三日午前十時半發奉天へ向ふべし（奉天特電）[illegible]より歸國の途に在る加奈陀陸軍少將外一名は二十二日午前六[illegible]



▲雜貨洋酒食料品菓子類洋食器類其他御贈答品各種澤山取揃居候▼

△商品切手は——雜貨食料品等に通じ又東京、大阪、神戶、大邱、平壤安東縣にて相引換頗る御便利に御座候▽

福引景品進呈

歲暮大賣出し

京城本町二丁目 電話二七〇四七五番

龜屋

掉尾の活動!!

歲末大賣出開催廿日より卅一日迄

既成品全部五分引▲▲▲▲▲▲提供

常に好評を博せる弊店特製既成品は更に多數出來仕り候

歲末に際し平素の御愛顧に酬ゆる爲め絕體忠實なる正價に對し更に五分引の特價を以て提供可申候陸續御用命奉上候

トンビ＝霜降メルトン〇スコッチ〇ラクダ裏アルパカ又はカイキ＝二十二圓＝廿七圓＝卅一圓＝其他各種

ヲバーコウト＝色スコッチ〇縞スコッチ〇色メルトン裏アルパカ〇朱子地＝十七圓＝廿二圓＝廿七圓＝其他各種

將校マント＝黑ラシャ〇黑メルトン等＝廿五圓＝廿圓＝十五圓 其他各種

小兒マント＝男兒用…黑ラシャ…黑メルトン…裏赤ネル或は朱子丈尺八寸ゟ三尺迄價格六圓ゟ十圓迄各種

…女兒用…縞メルトン縞スコッチ裏赤ネル又は朱子丈尺八寸より三尺迄價格十圓より十一圓迄

小學生諸君には 粗品進呈

京城南大門通二丁目

丁子屋洋服店

既成部

電話二三三〇、六九〇

…命令せり(北京特電)

○四督軍出兵中止

南北の休戰妥協は未だ成立…

○伊勢艦與回航

軍艦伊勢は二十二日神戸より威風堂々旅順港に向け出發せり(神戸電報)

○坂西少將任期

支那觀戰武官一行の東道役たりし總統府顧問坂西少將は一行を下關…

…十二日午前九時半安東…其他を視察し正午公會堂に於ける有志の招待會に臨みたる後…

○ベル少將通過

獨佛戰線…に榮轉することに決せり(奉天特電)

●植民地生活廿餘年(中)

近く朝鮮を去つて東京に移轉する 石塚東拓總裁の追想談

臺灣や關東州の官途は朝鮮と關係が薄いから暫くにしやう、唯一言を加ふれば吾輩は明治卅一年三月臺灣總督府參事官長として赴任し三十八年の春まで滿七年臺灣に勤續した

▽其の間歐米にも遊び能く東上不在勝なりし民政長官代理の職務を執つてゐた、卅八年の五月吾が租借地關東州に民政の實施さるゝや關東都督府民政長官として大連に赴き、明治四十年五月の撤官まで新占領地に於ける民政施行草創の際多少の力を効した積りである……再渡韓の動機は明治四十年の七月日韓兩國の新協約が締結され、韓國政府の各部に次官以下の日本人官吏を任用する事並に重要なる行政立法事務は統監の承認を經るを要する事となつた爲めである、吾輩は

▽韓國政府の政務に付統監の承認する事務を執るべく、九月二十日統監府參與官を拜命、同廿八日東京を發して宮島に南下した、蓋し先發の故伊藤統監の一行に加はらんためである、宮島には二日滯在、一行は笠置見島の二艦に分乘仁川に向つた、笠置には伊藤統監村田將軍古谷秘書官等が乘込み、吾輩は新に赴任の曾禰副統監並に新協約により宮內府次官たるべき小宮三保松君、度支部次官たるべき荒井賢太郎君、法部次官たるべき倉富勇三郎君等と共に見島に乘艦した

▽仁川より京仁線で十月三日着任したと記憶する、其後統監府にて所管事務を掌理する內、頓もなる出來事は四十二年七月には司法權の委任協約あり、同年十一月より實施する事に決定した、之より先き伊藤公は統監を辭し曾禰副統監の昇任を見たが、公が任に於ける事務の引繼ぎは七月十二日に終り、公は直ちに歸朝の途に就いた、其後公の露國行きを進み、十月二十六日哈爾賓驛頭の兇變天下を驚ろかせる以來の韓國の政況は

▽隨分混亂の狀態に陷つた、乃ち一進會の日韓合邦建議の提出となり之れが贊否の論を喧々囂々と朝野の間に捲き起したのである、一進會の建議に贊成し又反對する團體は續々起され遂に數十に昇つた、大韓協會の如き、進步黨の如き、政友會の如き、興學會の如き其の二三の例で政論半島の山河に洶湧し殆ど拾收し難い有樣だつた、一方日本の輿論如何と見るに大體に於て日韓併合を行はねば韓政統治の目的を完全にし有終の美果を收むる事は出來ないと云ふに一致し又一方曾禰統監も亦

▽併合遂行の方に傾むいて居つた然るに此の非常な時局に際會した時、曾禰統監の健康は不幸にして佳くなかつた、曾禰子は伊藤公との間に事務の引繼ぎを終る前日乃ち四十二年七月十一日其の宿痾は癌と診定された、爾來病勢に一起一伏ありしも漸次重態に赴き、流石の子爵も統監の職務を親る事不可能となり常に湯藥にのみ親しんでゐた、隨つて總務長官の事務を擔任せる不肖は此間に處し容易ならぬ苦心をした

◇一萬圓御下賜

日本基督青年會の光榮

天皇皇后兩陛下には今回日本基督教青年會が歐洲聯合軍慰問事業を計畫せるを聞し召され畏くも金一萬圓を御下賜の御沙汰あり同會長江原素六氏は二十二日午後十二時半宮內省に出頭拜受せり(東京特電)

●桐野炭鑛大爆發

坑夫三百七十餘名慘死? ‖慘澹たる光景を呈す‖

二十一日午後九時半福岡縣桐野炭鑛にて瓦斯爆發し作業中の坑夫三百九十九名の內二十五名逃げ延びたるも三百七十四名は全部慘死と認められ救助不可能にて光景慘澹たるものあり(福岡電報)

▲坑夫全滅す この別報

貝島家所有の桐野炭鑛は二十一日午後九時瓦斯爆發し當時の入坑者役員十二名鑛夫三百八十餘名孰れも死亡せしと

の、如く大混雜を呈せり同坑一日の出炭額は九百噸に及ぶと(門司特電)

▲三好炭鑛も小爆發

折尾驛附近三好炭鑛は二十一日夜輕微の爆發あり負傷九名を出したり(門司特電)

▲福岡縣三好炭鑛は二十一日午前十時坑內にて瓦斯爆發坑夫六名慘死せりとの報あり(大阪特電)

▲炭價騰貴せん 大阪の標準炭

桐野炭鑛爆發にて炭價騰貴す可く若し全滅せば關西商工界の影響は多大なる可く同鑛の石炭は大阪の標準炭なり(大阪特電)

▲內務官吏派遣

桐野炭鑛爆發の報に接するや內務省は二十二日安武事務官を現狀視察の爲め急派せり(東京特電)

◆龍山有志の軍隊歡迎(本社寫眞部)

◎龍山駐劄軍隊歡迎會

今回大邱並に大田より移駐し來りし步兵第四十旅團司令部及び第七十九聯隊の歡迎會は龍山有志の發起にて二十二日午後一時より新龍山龍光館に於て催されたり定刻前より當日の主賓なる金久保旅團長宮塚聯隊長外聯隊附將校陪賓としては池內憲兵隊長其他軍司令官等百餘名來賓としては松永道長官外數十名來場屋外に設らへたる休憩場に於て休憩の上零時三十分開會主客席定まれば金谷府尹龍山有志を代表して歡迎の辭を述べ金久保旅團長の謝辭に亘び松永道長官の發聲にて移駐旅團及び聯隊の萬歲を三唱し乾盃を終り二輪加京人形及び八景園新玉等の紅裙連の手踊あつて二時閉會したるが仲々の盛會なりき

♣歲末スケッチ‖年賀狀‖

今年も愈々餘す所旬日に迫つて來た、晝夜銀行で働いても二百十何時間しかない譯けだ、內地なぞに出す年賀狀は今の內に書いて置かなければ元日早々配達が出來ないと云ふ事になる、かるが故にひるは勤務め夜は三更の頃迄で年賀狀の宛名を書く、あゝ歲末多事なる哉‖とみ‖

◎平素の健康で命脈を保つ

其後の青山博士

青山博士は容態刻々危險に瀕せるも二十二日午前十一時四十分カンフル注射を行ひたり主治醫入澤博士の談に依れば危險なる狀態に入りつゝ斯くの如く命脈を保てるは極めて稀なる特例にして之男爵平素の體力健康の力なり(東京特電)

◎露國婦人自殺を企つ

生命覺束なし ‖原因はヒステリー

露國軍醫の妻なるジョルモフ夫人(二八)は本國の戰亂を避け九月より帝國ホテル新館二階第百〇五號室に滯在中なりしが二十一日午前十一時居室の扉を閉ぢ寢藥フィゾースチユーミンを服し自殺を企て氣息奄々たるを發見されたり直ちに林病院に收容手當中なるが一命覺束なし、夫人は非常なる美人にて自殺の原因は神經衰弱に罹りて厭世悲觀の末なる可しと(東京特電)

◎薪炭類の入荷が尠い

石炭の相場

朝鮮ばかりでなく內地でも薪炭缺乏の狀態には大分苦しめられて居るが最近內地では政府が木炭の

◆◆價格調節の爲め國有林の製炭を市場に出したり製炭原料木の拂下を增したり鐵道輸送を圓滑にして需給の調節を計つた結果幾分低落を見るに至つたとの事であるが朝鮮では

◆◆底知らずの騰貴で需要者を惱やかす事甚しく此分では薪炭費が米代以上家賃以上に嵩むに至るだらう衣潰れ、喰潰れ、燃潰れとは宜く聞く嘆息である石炭の相場は

◆◆相變らず塊炭が二十一圓粉炭が十九圓毎月大連から六七千噸許りの入荷があつて需給を調節して居るが薪炭類は產地からの入荷が少い爲め當事者は多少買惜しみの傾向があるとかで販先は

◆◆益々強硬相場は一して居るが堅炭の上估は卸値で三十貫一圓九十錢から二圓木炭は一俵一圓十錢自炭は九十錢位である相當な南大門驛著の木炭は昨年の十一月中は千百七十六噸本年は千五十噸十二月中は昨年分が千百二十九噸で本年は廿日まで七百十噸であるから二三割の減を示しても宜からう何故

◆◆入荷が減じたかと言ふに貨車配給が充分でないのと山林取締が嚴重で製炭原料が少いのと地方民の懷ろが暖い爲め製炭が減じたなど、言ふ種々な原因の爲めであるが然らば京城に於ける在荷は什うかと言ふに九月頃から

◆◆當業者中には先高を見越して小口ながら買占めて置いた結果入荷の少い割合に在荷が多いとの事で此分では世間の騷ぎ程まで炭類の饑饉にはなるまい重なる產地は新幕、南川、甌溪、瑞興、鐵原、東豆川等である

●問題の白川友一氏

安東縣より南下

白川友一氏は大連よりの歸途二十二日午後六時半南下京城に向へるが大石橋にて工事を請負ひたるを以て時々往復す可しと稱し居れり(安東縣特電)

●大金を盜む

住所不定の李喜柱(二七)は十二月十四日午前二時頃黃海道黃州郡松林面二浦三星商會に忍び込み主任田部健次(三九)保管中なる現金一千百七十三圓銀側懷中時計外二點を竊取し黃州面碌洞里舉手の警戒山中に潛伏中を即時黃州署の手に逮捕され贓品殆ど全部發見押收し目下取調べ中

◎例年より寒さが酷しい

今歲の冬は例年より寒さが酷しい樣である、此の寒さの度を例年に比べて見ると二十二日朝京城では攝氏氷點下九度で昨年より四度低く例年より九度低くかつた、一體に本年は各地とも初雪や初氷が例年より早く溫度も隨つて低いから是になつては一層酷からうと言つて今から寒むがり連中はビク〳〵してゐるが、昔ても信じた

〈既往十年間で一番寒かつた明治四十四年の一月十三日の極寒ですら氷點下二十一度五であつたから假令酷寒が劇しくなつても此の先き十度位寒いと思へば間違ひはあるまい、さうして天氣に就て京城測候所員の語る所を聞くに十四五日頃から大陸方面の高氣壓が固まつて朝鮮は其の圈內に入つたからで當分天氣は快晴が續くであらう、尤も十九日深夜に小雪があつたが彼れは地方的の小部分に降つたものであつたと

●各學校と冬季休業

京城學校組合の管理に屬する京城公立高等女學校を始め府內各小學校及び幼稚園の冬期休業及び來春始業日割を聞くに高等女學校及び府內各小學校は二十八日迄授業し二十九日より來春一月七日迄冬季休業を爲し一月八日より第二學期を開始すべし幼稚園は規定は二十日迄なるも五日間延期閉園し二十六日より來春一月七日迄休園する豫定にして戊午元旦には各學校幼稚園とも午前九時三十分若くは十時より拜式の事に決定せりと

◎島ノ訓導の訃

京城高等女學校訓導…氏は曩て盲腸炎に罹り腹膜炎を併發し遂に二十一日午後五時二十分死去せり氏は…[illegible]…十四

□冬至と日本支那

◆朝鮮人の風習

(冬至や門扉に小豆粥を塗りつける)

冬至といふと一年中最も日の短かい日でこれより日が少しづゝ長くなるといふ事は誰でもよく知つてゐる事であるけれども冬至については色々

△傳說 があるもしこの日が溫和で晴朗であれば來年の麥作が豐饒で雷があれば雨水多く、南風があれば旱にして米が騰くなるといふ事がある。又支那では古來この冬至の日を一陽來復の節と云つて大小の官吏は年始の如く朝服を著して參內拜賀し家々酒宴を設けて祝ひ、貴賤とも團子を作つて食べる習慣があつた。

△朝鮮 では小豆粥を拵へて家の柱や門扉に振り掛ける習慣があるがこれは矢張り支那から來たもので一年中の疫病に對する呪咀だ、さうだ又此の日に翌年の曆を贈答する習慣がある、內地でも昔しは貴人の家ではこの日を獻上等があつた。

△穀物檢査制度

[illegible]

△出炭制之

[illegible]

朝鮮製綿株式會社

定款第十五條により大正七年一月一日より總會終了の日迄株式名義書替を停止す

大正六年十二月

軍隊拂下品

紺ラシヤ外套(二千枚限り) 一枚に付き金一圓六十錢

鐵道局拂下外套各種

其他防寒襦袢、袴下、毛布、袋、覆面、沓下、脚袢、外拂下德用品一切

千客萬來

京城北米倉町 雜貨商 オリヤス 村上商店 電話千百十二番

印刷インキ製造

京城明治町二ノ二 櫻井商店 電話三一一六 振替京城二三五

鑛山燈

鑛業界の明星─みつびしアセチリン燈

第二〇四號型

新案特許 堅牢耐久

各種鑛山燈

第二〇二號(眞鍮製)(八時間用)

第二〇四號(眞鍮製)(十二時間用)

第一〇〇號(土工用)

第三〇一號(全部ニツケル)(役員用)

第三〇三號(新提灯)

製造發賣元 東京 本鄉町一〇 合名會社 鐵村工業所

京城電氣株式會社 瓦斯コークス

一手販賣所 京城南大門通五丁目 越野商店 電話二〇二一番

小賣共廉價にて販賣可仕候特に地方行は迅速に御取扱可申候

岡本齒科醫院

小學兒童齒牙健康診斷無料(每日五名限り)

京城本町一丁目

夜間診療(奇數日十時迄) 晝間多忙家之爲

株式會社第一銀行支店

資本金 二二、七〇〇、〇〇〇圓

積立金 一一、二〇〇、〇〇〇圓

諸預金 一八八、〇〇〇、〇〇〇圓

支配人 西村道彥

京城府本町二丁目(振替貯金京城一一番)

移轉

當事務所左記へ移轉仕候條此段謹告仕候

追而歲末歲首に際し一々御挨拶可申上の處移轉早々混雜中缺禮仕候間不惡御諒承被下度候

大正六年十二月二十三日

京城府旭町一丁目六十三番地

藤田鑛業株式會社 朝鮮鑛業事務所 電話長一五一番

所長 原田信三

LEGUMON

新滋養劑 レグモン

肺結核、慢性腎臟病、糖尿病、乳汁分泌不足、熱性病並に其恢復期其他一般病中病後の衰弱に對して最も有力なる營養增進と強壯の効を奏する代表的國產滋養劑

定價 百五入 金壹圓貳拾錢 二百五入 金二圓貳拾錢 四百五十五入 金四圓五拾錢

說明書無代郵呈

大阪市東區道修町 一手販賣元 武田長兵衛

櫻御殿

大阪 鐙の家主人

第百四回

恩と仇（四）

采女は美知姫と初瀬とに迫られて、遂に清之亟の力を乞ふべく約して引き退つた

その日から夜へかけて勤務を終つて、翌日の朝家へ歸る、その途中で松平に昨日の一伍一什を語て

「さて〳〵難儀な事になつた、お主は何んと心得る」と振返り云ふ

「或る程、これは閉口にござりまする、清之亟様にお願ひして、お聞き入れがござりませうか」

「奧方も芳野どのも、大丈夫お聞下さると云ふて居られた、能し

初瀬殿とはお間が好くないさうなやで喃」

「けれど一方から考へますと、助左衛門様との御約束もござります、助左衛門様が初瀬殿のお行方を探しにお出でなされたは、初瀬殿が憎いので無く、清之亟様への意地を貫くお心と推量されます、すれば初瀬殿の御運命は、取りも直さず清之亟様の御運命でござります、初瀬殿の御命が、助左衛門様の刄の頭にお掛りなさるときは、清之亟様のお命もお消えなさる時でござります」

「大きに聞うぢやの」

「假し、初瀬殿との御間は何うでござりませうとも、御自身の御命を守らせたまふ爲めには、助左衛門の前に立つて、劍をお揮ひ遊ばさねばなりませぬ」

「すれど、初瀬殿に御加勢を下さらうか」

「取り分け奧方のお詞が添ふて居れば、否やを仰せられる筈はござりませぬ、義理から申せば、若様が助左衛門様の後を追うて、お出掛け遊ばすが當然であらうと存じますれど、それでは大望のお妨げになります、若様のお命に一つ、恩と仇とは二つ、何方でも良い方をお取り遊ばすより外ござりませぬ」

「わしは仇が打ちたい、お家様のお恨みが晴らしたい」

「ちやに由つて、清之亟様をお頼みなされませ、御恩返しは清之亟様にお任せなされて、若様は仇ばかりをお狙ひ遊ばしませ」

「おう〳〵」と采女は初めて胸の雲が晴れたやうに云つた

「それでは直ぐ清之亟様をお尋ねなされませ、時後れては初瀬様のお身の取り返しの付かぬ事があつてはなりませぬ」

「それも尤ぢや、さらば清之亟のお宅へ參らう」

采女はそこから辻を横切つて、清之亟の家を訪ねた

清之亟は非番であつた、采女が訪ねて來たと聞いて、思はず眉を顰めたが、斯ういふ機を利用して彼の本心を探つて置くのは、後日の爲めになるであらうと思ひ付いて、すぐ奧の間へ通した、采女は十二歳の少年なれど、正之の直参としては一微驅ながら一人前の武士であつた

「よく參つた、今日は非番か」

「只今御殿から退る處でござります」

「急用でもあつて參つたか」

「少しお願ひ申したいことがござりまして」

「何事ぢや」

清之亟は采女の顔色に目を付けながら云ふ、采女は美知姫の口上に色を付けて

「實は此の後を御相談に參つたのでござります」

清之亟は意外に驚いた

「存じも掛けぬ、拙者に初瀬殿の助太刀を致せとか」

「御意にござります」

「はて案外の仰せ、左様なことがならうか、平に斷はる」

皮膚科　皮膚病　黴毒　淋病　生殖器　機能障碍　京城明治町二丁目（電話一七三番）　佐藤醫院　（診察夜九時迄）　日曜祭日午後二時迄

日報歌壇

賀子臣先生選　課題「土」

天地のそのおほらかの土にしてわれは知らずや嘆きこゝろに　角田芳子

いのち欲るこの寂しさは地の底の幽默をさへ掘る土龍　由北敬人

夜かふかみ背戸の庭の土じめりいのち恐くも鳴く虫のあり　那古井冬子

もろの手に土をつかみてなげしかどさはみにくし散らばりにけり　高須翼秋

こゝさらに大地をふめど酒なげき涙ひるもしすりも沈むなり　阪本喜翠

天地は冬となりたれ野邊遠く人を探むる土掘りてあり　小松竹陽

日さすかたへにみゝずはい出で土に行かむとぞみちなきあはれさ　市崎河木良

農士の大野の土を耕すと遠く人間ゆ秋風の中に

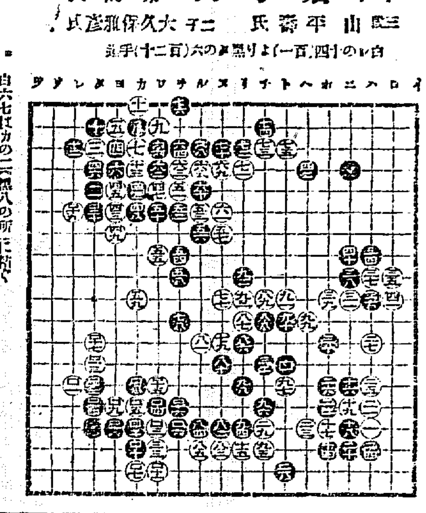
おちかへす黒土のくれの一ゆれのひびきて秋の葉は落ちもするかな　鈴木吉猛子

久方の[illegible]

圍碁手合

十一番碁　第二局の六　三段 山平喜氏　二段 大久保雅彦氏

白（二百十一手）白の四十三より黒の六の所（二百十一手）



白六七はカの二、黒八の所に續く

新刊紹介

[illegible]

砂糖　其外好適品々種取揃へ候　五斤入　七斤入　十斤入　廿斤入　千利堂菓子舗

お歳暮贈答品は何がよい？　思案召さるな！！

最新刊　大阪屋號書店　[illegible]

大斜定石法　[illegible]

おつきさまし　カゼピリン本舗　淺野樂天堂

りん病ばい毒　ワにせドラッグあり御注意　詐欺漢なり　京城南大門外　ドラッグ商會

東亞牧場　京城蓬萊町四丁目　模範牛乳　ニッソ

賣　田村質店

恩給年金立替　吉田屋　山口屋　江州屋本店　國江商會　杉本質店　丸五商會

京日案內　[illegible]

MITSUWA QUINA-IRON WINE

being prepared from the best materials by thorough scientific investigation, is absolutely free from all defects will be found in general tonics. It contains two powerful specifics: Quina and Iron, which we may affirm it without exaggerations, are the most efficacious remedies for regaining energy to persons of weak constitution, inappetence, poverty of the blood, nervous diseases and general debilities in the organism. The wine is greatly nourishing to all people, without exception, whose mode of life, both physical and intellectual.

Mitsuwa Quina-Iron Wine is very delicious and agreeable to take and moreover, easy to be absorbed and assimilated.

Price ¥ 1.50

病者の食慾を催進して營養を佳良ならしめ治病の完璧を期し回春の喜を迎へしむべき

ミツワ規那鐵葡萄酒

滋養强壯料

（現品縮寫圖）

MITSUWA GINSENG WINE

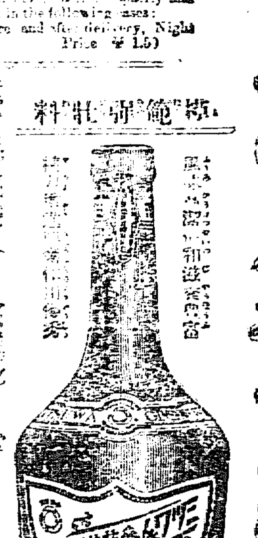
Mitsuwa Ginseng Wine, being rich in the nutritive properties which build up vitality and force is very delightful to taste and also remarkably wholesome and nourishing to the weak and sick. By means of the [illegible] method the fresh juice of the grape and the efficacious Ginseng are mixed in a well-balanced combination. Then it is assimilated completely and transformed, with the least possible tax on digestion, into the elements of active capacity and power. Mitsuwa Ginseng Wine is especially effective to be applied in the following cases: Energy decline and low spirits, Nervous debility, Inanition before and after delivery, Night spoil, Poor appetite, Indigestion, Poverty of Blood, Hysteria.

Price ¥ 1.50

健者の胸腹代謝を旺盛ならしめ疲勞を除き身體の强壯を圖り精新活力を賦與し得べき

ミツワ人參葡萄酒

强壯滋養料



（現品縮寫圖）

釜山出帆廣告　尼崎汽船仁川出帆　共同汽船仁川出帆　仁川自動車著發時刻　日本郵船仁川出帆　大阪商船株式會社汽船出帆廣告　[illegible]

東京公債特電　[illegible]